

令和2年度

研究紀要

第53号

研究主題

よりよい未来の創り手を育てる新たな特別活動の展開

東京都中学校特別活動研究会

研 究 紀 要 目 次

研究紀要第53号に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・	1
会長 小平市立小平第五中学校 校長 青木由美子	
令和2年度の研究・・・・・・・・・・・・・・・・	2
事務局長 江戸川区立松江第五中学校 校長 荒巻 淳	
I 「特別活動の実施状況調査」報告・・・・・・・・	3
II 第19回 生徒会長サミット（Web）・・・・・・・・	32
会則・・・・・・・・・・・・・・・・	37
令和2年度 事務局員 名簿・・・・・・・・	40



研究紀要第53号に寄せて

東京都中学校特別活動研究会

会長 青木 由美子

(小平市立小平第五中学校)

研究紀要第53号の発行に当たり、本研究会を代表してご挨拶させていただきます。日頃より、関係の皆様には本研究会へのご理解とご支援をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

今年度は、全ての学校が、そして社会全体が、新たな驚異「新型コロナウイルス」感染拡大の防止対策と戦ってきた日々でした。政府による緊急事態宣言と全国の学校の臨時休業という異例の出来事に、学校の教職員も生徒も保護者も戸惑いながら、「新しい生活様式」を取り入れ頑張ってきたこの1年間でした。どの学校も、学校行事が中止を余儀なくされたり、教育活動に制限があったりする中で、各学校では、「何ができるか」「どうやったらできるか」と、様々な工夫を凝らして学校教育を進めている現状がありました。

私たち東京都中学校特別活動研究会も、これまで実施してきた多くの研究活動が中止を余儀なくされる中で、どのように研究活動を進めていくか考えた結果、前述のような学校の状況を調査し、「各学校が何に困難を感じ、何を工夫し、特別活動をどのように進めているか」を把握して発信することにいたしました。その大きな理由の一つには、特別活動が子供たちの人格形成を担う上で大変重要な教育活動であり、このコロナ禍において、特別活動の意義や役割を改めて考えることが大切だと感じたからです。この調査を通して、各学校が、感染対策を講じながら、本当に一生懸命に特別活動を推進してきた様子を知ることができました。今年度の本研究紀要は、その調査研究の結果を中心にまとめましたので、是非ご覧いただければと存じます。お忙しい中、8月に実施しました調査にご協力いただき、本当にありがとうございました。この研究が、各学校の教職員の皆様はもとより、特別活動を研究される方々や教育行政の方々にとって少しでもお役に立てれば幸いです。

次代を担う子供達に、自分に自信をもたせ、将来への夢や希望の実現に向けて、生きる力の育成を図ることができるよう、活動の充実や指導力の向上に向けて、本研究会としても今後も充実した情報が発信できるよう、努めてまいりたいと存じます。今後とも本研究会の活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

研究主題：よりよい未来の創り手を育てる新たな特別活動の展開

1 定期総会 令和2年5月16日（土）・・・Webで実施

2 調査研究

「特別活動の実施状況調査」

（1）調査の目的

特別活動の実施状況や工夫を凝らした特別活動の実践事例について情報収集し
都内公立中学校及び関係者に発信することを目的とする。

（2）調査の内容

調査の趣旨及び目的に基づき、特別活動の各活動及び学校行事における具体的
な活動の実施状況や実施の工夫点、未実施の理由について、アンケート調査を実
施した。

（3）調査の対象

特別活動担当教員またはそれに代わる教員、管理職等

（4）調査の実施期間

令和2年7月24日（金）から令和2年8月31日（月）

3 第19回 生徒会長サミット（Web）令和2年12月26日（土）

4 事務局会 年間9回実施

会場：小平市立小平第五中学校、Web事務局会

5 会報発行 第99号の発行

6 研究紀要発行 第53号の発行

7 東京都中学校特別活動研究会のホームページの運営

I 「特別活動の実施状況調査」 報告

1 調査の趣旨

新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言が発令され、全国の学校が臨時休校措置をとることとなった。5月25日に緊急事態宣言が解除され、教育活動が再開されたが、授業時数の確保や感染拡大防止の観点から、運動会や修学旅行をはじめとする学校行事が中止や延期を余儀なくされたり、特別活動の特質である生徒同士の話し合い活動の実施に苦慮されたりしている現状があった。

そこで、本研究会では特別活動の実施状況調査を実施し、都内中学校における特別活動の実施状況や工夫を凝らした特別活動の実践事例について情報収集し、それらを発信することで、コロナ禍で教育活動（特別活動）を進めていく上での一助となるのではないかと考え、本調査を実施することとした。

2 調査の目的

特別活動の実施状況や工夫を凝らした特別活動の実践事例について情報収集し都内公立中学校及び関係者に発信することを目的とする。

3 調査の内容

調査の趣旨及び目的に基づき、特別活動の各活動及び学校行事における具体的な活動の実施状況や実施の工夫点、未実施の理由について、アンケート調査を実施した。

4 調査の方法

調査の方法は、次の2通りとした。

- (1) 東京都中学校特別活動研究会のホームページにアクセスし直接回答する。
- (2) 都内公立中学校に交換便で送付した質問紙に回答する。

5 調査の対象

特別活動担当教員またはそれに代わる教員、管理職等

6 調査の実施期間

令和2年7月24日（金）から令和2年8月31日（月）

7 調査の実施状況

232校（Web回答：129校、交換便等103校）
都内公立中学校の約38%

特別活動の実施状況調査結果・考察目次

1 学級活動

- (1) 班などの小集団での話し合い活動・・・・・・・・・・ 5
- (2) 学級全体での話し合い活動・・・・・・・・・・ 6
- (3) インタビューしたり発表したりする活動・・・・・・・・ 8
- (4) 地域人材など講師を招いて講話を聴く活動・・・・・・・・ 10
- (5) 学校図書館を活用する活動・・・・・・・・・・ 11
- (6) キャリア・パスポートの作成と活用・・・・・・・・ 12

2 生徒会活動

- (1) 生徒総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (2) 生徒会役員選挙・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (3) 各種委員会活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- (4) 挨拶運動・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (5) ボランティア活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

3 学校行事

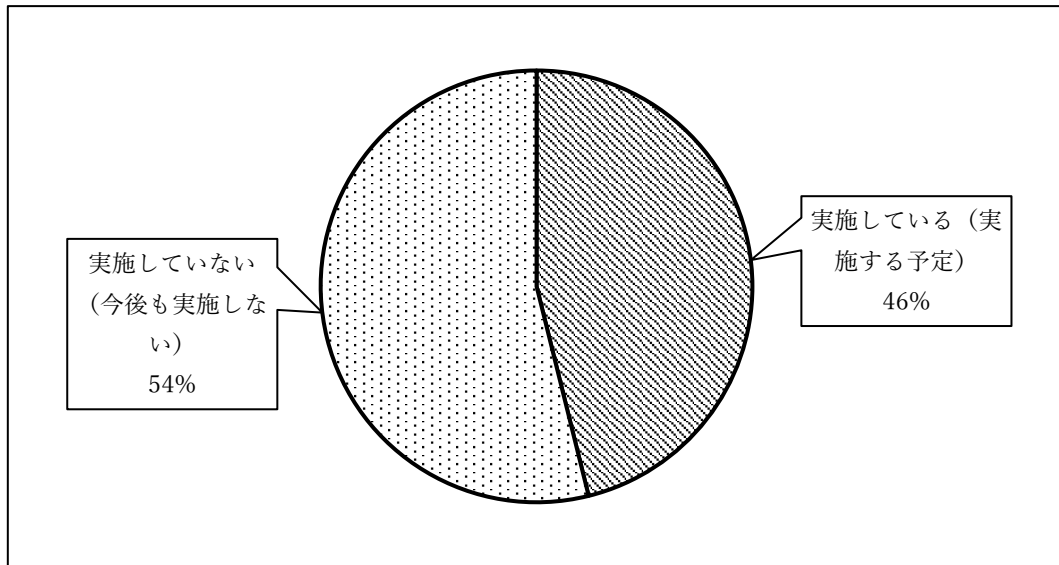
- (1) 入学式・始業式・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (2) 離任式・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- (3) 新入生歓迎会・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- (4) 運動会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- (5) 文化祭(学習活動発表会)・・・・・・・・・・ 24
- (6) 合唱コンクール(合唱祭)・・・・・・・・・・ 25
- (7) 宿泊行事(修学旅行、移動教室、スキー教室)・・・・ 26
- (8) 薬物乱用防止教室・セーフティ教室・交通安全教室など・・・・ 27
- (9) 避難訓練・防災訓練など・・・・・・・・・・ 29
- (10) 職場体験活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

4 その他の各校の特色ある活動・・・・・・・・・・ 31

Ⅱ 調査の結果と考察

1 学級活動

(1) 班などの小集団での話し合い活動



① 具体的な活動内容

- ・意見の交換
- ・係会等
- ・学級目標決め
- ・係やリーダーの選出等
- ・組織づくり、班の係分担
- ・生活班の決まり、目標や役割分担の検討
- ・班活動、係活動、当番活動の内容や進め方についての話し合い
- ・学級の課題について意見を出し合う活動
- ・学級の雰囲気をよりよくするための班ごとの話し合い
- ・学級目標の振り返り
- ・生徒総会議案書討議
- ・生徒会の取組についての話し合い
- ・学校行事の目標決め
- ・学校行事（コロナにより中止された行事の代替学習を含む）への取組
- ・修学旅行等の班活動計画の策定
- ・校外学習ができた場合のコース設定
- ・働く理由について考える

② 工夫した点

- ・マスク着用
- ・マスクを着用した状態で必要最低限の会話のみ
- ・大声を出さない、小さい声で話す
- ・フェイスシールドを着用、手持ちシールドを顔の前で持って意見を言う
- ・パーテーション使用
- ・対面での会話を避ける
- ・生徒同士の距離を広くとって実施
- ・1 m以上間隔を空けて実施
- ・机・いすを動かさずに身体のみ動かす
- ・ダイヤモンド型など机の配置を配慮する
- ・ジェスチャーによるコミュニケーションなど、発生を少なくした
- ・互いの机を話して班を作る
- ・ホワイトボードを利用し、話し合いを視覚化する
- ・2人3人程度の集団とする
- ・6人班、4人班併用

- ・小人数規模の学校のため、1 クラスを 2 分割して実施
- ・タブレット端末の活用、P C のアプリを使ったプレゼン
- ・ワークシートを回し読みしない
- ・付箋や画用紙を使って、発表は視覚的に行う
- ・記入後のワークシートを交換し合い意見交換、書き足しなど
- ・十分に換気を行って実施
- ・15 分以内になるようにタイマーをかける
- ・5 ～10 分以内で実施
- ・1 単位時間当たり 5 分程度のグループワーク

③ 未実施の理由・課題となった点

- ・新型コロナウイルス感染防止のため、飛沫感染回避
- ・3 密を回避することが困難
- ・コロナに対応できる手段が見つからない
- ・感染防止ガイドラインに則った学級運営をしているため
- ・対面活動の制限をするため
- ・安全が確保できることが確認されるまで実施しない
- ・給食ですら対面ができないので必然的に実施できない
- ・学校全体の方針だから
- ・保護者の理解が得にくいから

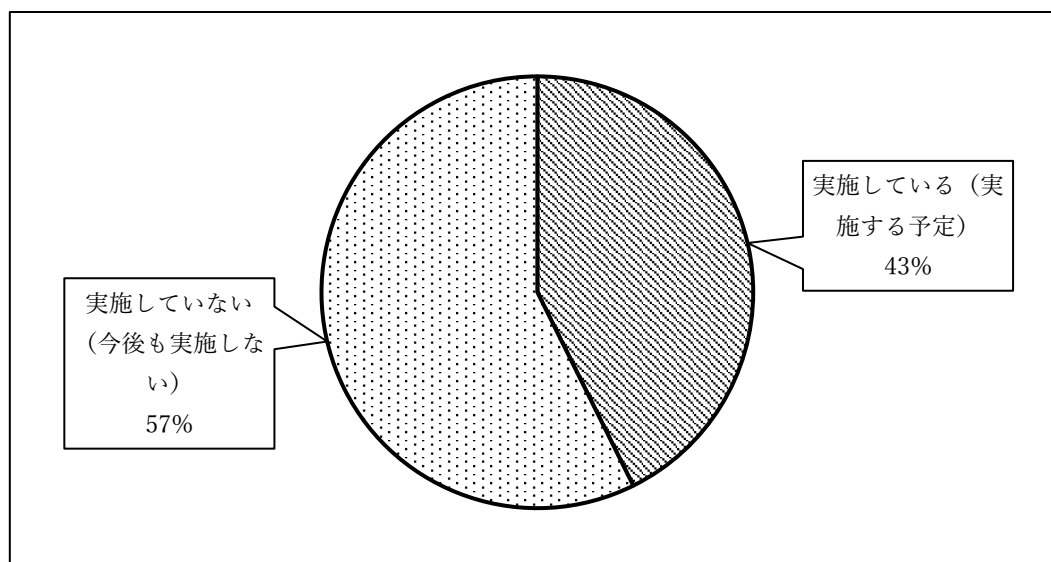
<考察>

班などの小集団の話合い活動について、「実施している」が 46%、「実施していない」が 54% だった。新型コロナウイルス感染症対策として三密を避けながらの学校再開であったが、約半数の学校で、学級での班活動が実施されている。その具体的な活動内容は次の通りであった。(1) ア「学級や学校における生活上の諸問題の解決」に関する、学級をよりよくするための話合いなど、学級の課題解決のための話合い活動が行われている状況がうかがえた。また、(1) イ「学級内の組織づくりや役割の自覚」に関する、学級目標決めや学級の係活動、役割分担やルールづくりに関する話合いなど、年度初めに必要な話合い活動や、(1) ウ「学校における多様な集団の生活の向上」に関する、生徒総会議案討議や修学旅行の目標決めや班行動計画の策定など、生徒会活動や学校行事への参加や協力に関する話合い活動も実施されていた。

新型コロナウイルス感染症対策としての工夫については次の通りであった。まず、マスクやフェイスシールドを着用したり、パーテーションを使用したり、机やイスの間隔や配置を工夫したりするなどの飛沫対策を講じていた。また、話合い活動における会話の工夫として、ジェスチャーをしたり、ホワイトボードや付箋紙やワークシートを活動したりして発声を避けるための工夫や、タイマーを使って時間制限を設けるなどの工夫も行われていた。

班などの小集団での話合い活動が未実施だった理由については、飛沫感染など 3 密を回避できず、安全が確保できないからというものが多かった。また、学校の方針だから、保護者の理解が得にくいから、などの理由もあった。

(2) 学級全体での話合い活動



① 具体的な活動内容

- ・委員会・係決め・座席決め
- ・学級目標を決め、クラス目標の検討、レクリエーションの相談と反省
- ・生徒総会の議案書質問
- ・クラスの学期末反省・クラス反省と対策について・学級目標の振り返り(予定)
- ・学級全体の合意が必要な活動
- ・学級委員を中心とした話し合い活動 学校行事に向けての話し合い活動
- ・通常どおり
- ・班活動と同様に、配慮しながら進めている
- ・修学旅行等のクラス行動のコース決め
- ・テーマに沿って、意見を出し合い、共有する
- ・小集団で話し合った内容を発表、意見交換など
- ・ペア、グループの話し合い
- ・スローガン決めなど
- ・ルールの設定など
- ・学習環境・生活環境の改善
- ・探偵ごっこをしてみよう(友達探し)

② 工夫した点

- ・ホワイトボードを用いて行う
- ・大声を出さない
- ・班での話し合いをせず、個人の発言を促した
- ・生徒同士の距離を広く取って実施
- ・口頭での話し合いに加えて、タブレット端末を活用
- ・発言者は前に出た時、聞き手と距離をとる
- ・発言の場をできるだけ少なくした
- ・机の間隔を1.5m以上とる
- ・机をつけず、マスクを着用して短時間で行う
- ・話し合いの持ち方を限定
- ・すぐ考えたことを口にしない
- ・適宜少人数で話し合い、全体としてまとめる
- ・前に出る議長は、前方の席の生徒と距離をおく
- ・話し合いの時間に制限を設ける
- ・長時間対面せずに行う
- ・生徒一人一人が作成したフェースシールドを着用
- ・マスクをした状態で必要最低限の会話のみ
- ・自席ではなく黒板前に出て発言
- ・机を班の形にしない話し合い
- ・アンケート用紙等を使い、行う
- ・教師主導としたり、付箋を用いたりした
- ・個人の意見の集約を話さずに行った
- ・発表者はその場か前列と離して教卓のところで発表
- ・一人一発言
- ・2学期は、生徒同士の距離を少し離して、ロの字やUの字の隊形で話し合いを行う予定
- ・対面にならないように気を付ける
- ・挙手して話す
- ・司会者は教室横で横向きに
- ・起立して発言しない
- ・机の移動はなし
- ・話をしている人に体を向ける
- ・電子黒板
- ・パーテーションを使用
- ・4人組などで出た案をホワイトボードなどで前に提示1クラスを2分割して行う
- ・学級委員が前に立ち、学級集団は机を前向きにした形での合意形成

③ 未実施の理由・課題となった点

- ・感染症拡大防止のため

- ・密を避けるため
- ・3密を回避することができない
- ・安全が確保できることが確認されるまで実施しないように指示した
- ・班の形にはしない方針のため
- ・落ち着くまではできない
- ・学校でやらない方針だから
- ・意見交換が円滑に進まない
- ・授業時数確保のため行っていない

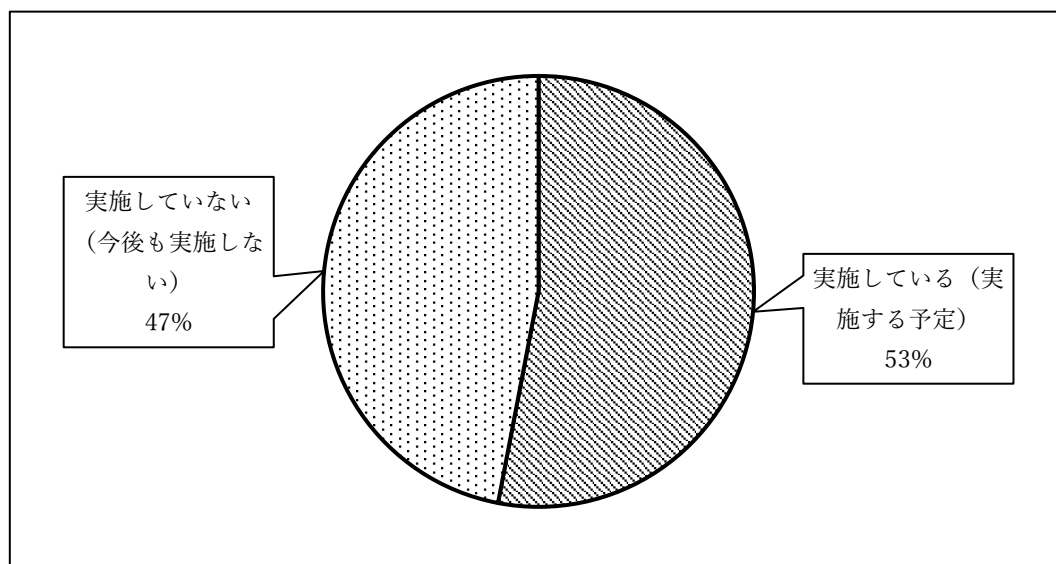
＜考察＞

学級全体の話し合い活動については、「実施している」が43%、「実施していない」が57%だった。具体的な活動内容については、(1)の班などの話し合い活動の内容と同じものに加えて、小集団で話合った内容の発表や意見交換が行われていた。新型コロナ感染防止をしながらも通常に近い内容の学級での話し合い活動が行われていた。

工夫した点については、新型コロナウイルス感染防止対応のための工夫が様々行われていた。例えば、ホワイトボードやタブレットの使用、大声を出さない、机の間隔を1.5m以上とる、話し合う時間を制限するなど工夫して行われていた。距離をとる工夫、対面にならないための工夫が多く行われていた。努力しながら学級全体での話し合い活動を行っている様子がよく表れていた。

未実施の理由については、密を避ける、安全性が確保できない、が多かった。また、(1)の班などの話し合い活動の場合と同様に学校の方針だからの他に授業時数確保のためという理由もあった。

(3) インタビューしたり発表したりする活動



① 具体的な活動内容

- ・小学校の振り返り
- ・学級目標づくり
- ・自己紹介発表、一人一言、目標、反省
- ・家庭学習のやり方について、同級生の方法を共有する
- ・学活でのスピーチ
- ・班員内での班員紹介インタビュー
- ・学級新聞の作成
- ・インタビューテスト
- ・各委員会からの連絡・呼びかけ、放送委員によるインタビュー放送
- ・上級学校調べ(インターネット等)
- ・キャリア講話(保護者代表複数へ仕事内容のインタビュー)
- ・身近な職業人へのインタビュー
- ・修学旅行、校外学習の事前事後学習
- ・調べ学習などの内容を発表し合う、新聞を使った調べ学習の発表、コロナ新聞発表会
- ・外国人観光客へのインタビュー
- ・一人一人にスポットを当て、インタビュー形式で発表を行う

- ・ゲストティーチャー
- ・リモートインタビューを実施した
- ・お昼の放送

② 工夫した点

- ・マスク着用、社会的距離の確保、対面を避ける、換気・消毒の徹底
- ・大声を出さない、おしゃべりをしない、させない
- ・前に出て発表する人はフェイスシールドを着用する
- ・飛沫感染予防シート、アクリル板、大きなハンガーラックに透明のシートを貼る
- ・マイク・拡声器を使い実施
- ・黒板に書いて発表に替える
- ・小さなホワイトボードに記入した内容を前で掲示
- ・廊下掲示にして接触場面を避ける
- ・プレゼンテーションソフトを用いた
- ・WEB 会議システム利用
- ・自席から全体へ発表、生徒が移動しない形で実施
- ・向かい合わせにならず全員同一方向での発言
- ・発表者は自席ではなく黒板前に出て、聴者との距離を取る
- ・学級生徒をグループ分けして 1 教室の人数を減らし、それぞれが別の場所で実施
- ・短時間でできるもの
- ・発表の仕方を学んだ後に発表をする
- ・事前の質問検討
- ・調べた内容をまとめる形式を明確にし、発表しやすくする
- ・質問がかぶらないように配慮
- ・質問内容は用紙に記入させ回答する
- ・少人数での司会役割確認
- ・1 つのテーマに沿って、意見を集約して発表する
- ・放送室に入る人数の制限
- ・校内の教員に限定したインタビュー
- ・地域住民を講師に招くことを検討
- ・電話、FAX、メール郵送で回答を得た

③ 未実施の理由・課題となった点

- ・感染症拡大防止のため
- ・密を避けるため
- ・長時間の会話を行うことでの飛沫飛散防止
- ・感染防止ガイドラインに沿った対応をしているため
- ・対面での活動を制限するため
- ・安全が確保できることが確認されるまで実施しない
- ・職場体験等、外部の方との接触を避ける
- ・インタビュー活動に対して不安感をもつ、教職員・保護者が多い
- ・今のところ受けてもらえる目途がたたない
- ・発表すべき行事が中止になった
- ・教科の授業の内容や時数の関係で、準備も含め時間確保が難しい
- ・インタビューや発表だと、時間の制限ができないため
- ・もともとあまり実施していない

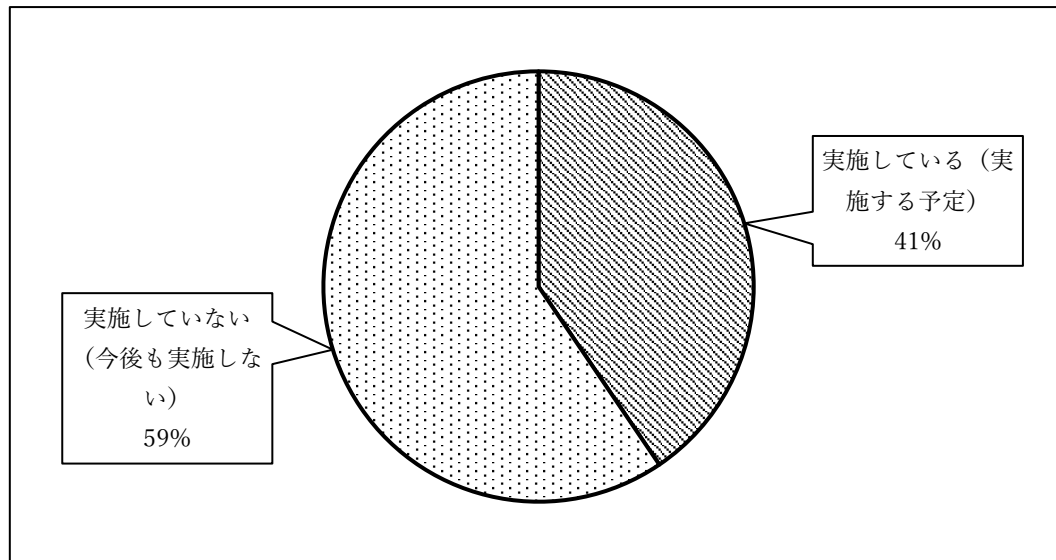
<考察>

インタビューしたり発表したりする活動については、「実施している」が 53%、「実施していない」が 47% であった。インタビューする活動としては、学級内や保護者など比較的身近な対象に個人で行う活動が多かった。発表する活動としては、個人の発表や新聞等紙面による発表が行われている。

工夫した点としては、日常的な感染防止策の他、掲示物やプレゼンテーションソフト、WEB 会議システムなど視覚的な効果を高めた発表方法が多くとられていた。また、発表の時間を短縮するために、人数を分けることや事前に発表の仕方や形式を学習するなどの工夫があった。

課題としては、対面による活動や外部と連携する活動の制限、発表の場の縮小、授業時数の確保などがあり、例年とは計画を変えて実施する必要がある。

(4) 地域人材など講師を招いて講話を聴く活動



① 具体的な活動内容

- ・キャリア教育に関わる講演（職業にかかわるもの）
- ・日本文化体験での体験内容への質問
- ・SDG s についての講話
- ・視覚障害者の団体による講演
- ・ハローワークの方を招聘する予定
- ・伝統芸能
- ・塾の講師による学習の仕方についての講義
- ・職業人の話を聞く会
- ・地域で働く人から生き方を学ぶ会
- ・性教育講演会
- ・卒業生の話を聞く会
- ・プレゼンテーションの仕方

② 工夫した点

- ・職場訪問を中止したので、ハローワークや事業所等の方から講話を聴く予定
- ・1 回の実施人数を減らすなどの感染症拡大防止対策
- ・VTR にとって、DVD でみる。保護者には、インターネットで配信
- ・場所を分散させ、三密回避
- ・互いの距離を取る
- ・全学年対象を変更、1 学年のみを対象にし、生徒席の前後左右の間隔を大きくあけた
- ・換気を十分行い、学級単位などできるだけ、大人数が集まらないように工夫した
- ・密を避けるため、オンライン会議システムを活用して講話をしていただいた
- ・マスク・距離
- ・ソーシャルディスタンスを保つ
- ・学年単位で実施し、密集状況を避ける
- ・当初はリモートでやる予定だったが市教委から OK をいただき少人数で実施
- ・会場をいくつかに分けて 1 教室の人数を減らし、講師が部屋を移動して講演を行う
- ・各クラスでの、オンライン会議システムを使用したリモートでの実施
- ・講師のフェイスシールド着用 教室でもポータブルマイク使用
- ・オンライン会議システムや校内放送で行う

③ 未実施の理由・課題となった点

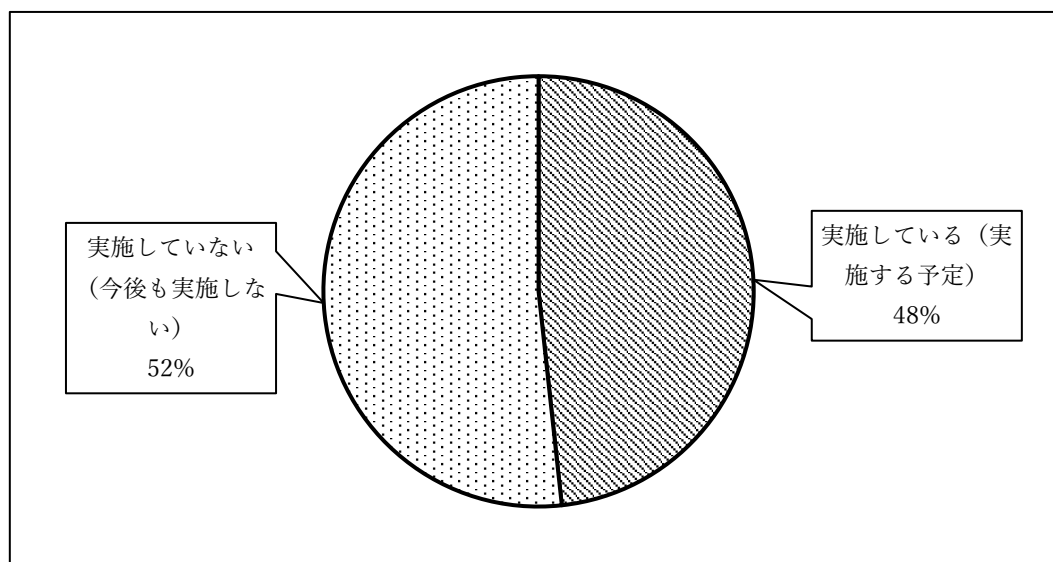
- ・密を避けるため
- ・感染症予防のため
- ・感性拡大防止の観点から、学校・学年単位という大人数で集まらないため
- ・内地から渡航できないため
- ・学校に外部の人を入れるべきではないため
- ・学級を超えての集会ができないから

- ・市教育委員会ガイドラインにより
- ・講師側からの中止判断
- ・先方の迷惑となるため
- ・学活の時間確保ができなかったため
- ・集合することができない
- ・保護者の理解が得にくいいため

＜考察＞

地域人材など、講師を招いて講話を聴く活動を実施した中学校は41%で、全体の半数以下であった。実施した中学校での具体的な活動内容は、職業に関わる内容や学習の仕方、プレゼンテーションの仕方など、進路に関わる講話を聴くという回答が多かった。他には、SDGsや性教育についての講話という回答があった。また、日本文化体験での体験内容を考えるという学校もあった。工夫した点については、マスクを着用し、大人数で集まらないように、場所を分散して互いの距離をとることや、講師のフェイスシールド着用、録画やオンラインシステムの活用といった、様々な回答があった。また、未実施の理由については、新型コロナウイルス感染症予防のためであり、大人数で集まることができないことや、保護者の理解が得にくいこと、学校内に外部の人を入れられないことが課題として挙げられた。講師側の判断で、中止になる学校もあった。

（５）学校図書館を活用する活動



① 具体的な活動内容

- ・ビブリオバトル
- ・身近な職業調べ
- ・読書推進活動
- ・放課後の学習センターとしての環境整備・広報活動
- ・学校図書館の図書を活用した調べ学習(移動教室、修学旅行の学習)
- ・図書室利用などのガイダンス、貸出、閲覧
- ・キャリア教育
- ・図書委員会による活動（貸出数コンテストなど）

② 工夫した点

- ・三密を避ける 座席指定（ソーシャルディスタンスを保って）飛沫防止ガードの使用 私語禁止
- ・学年ごとや学級ごとに利用日を決めている 人数制限 時間分散
- ・PCとの併用
- ・前後に必ず手洗いをするように徹底する
- ・閲覧席の半分を隣の空き教室に移すとともに、座席の間を広く取るようにした
- ・ガイダンスはクラスごとに実施
- ・生徒が手にした本は棚に戻さず、カウンターの前の返却場所に返す 3日間放置し、4日めに支援員が消毒をして棚に戻す
- ・入館前に名簿記入 図書館内での読書は禁止 出入り口を一方にする

- ・受付の混雑を避けるために整列の目安となる印を付けた、返却された本は2日間配架しない
- ・貸出カウンタービニール仕切り設置
- ・リクエスト方式 手に取った本は消毒、必要な本は教室に運んだ

③ 未実施の理由・課題となった点

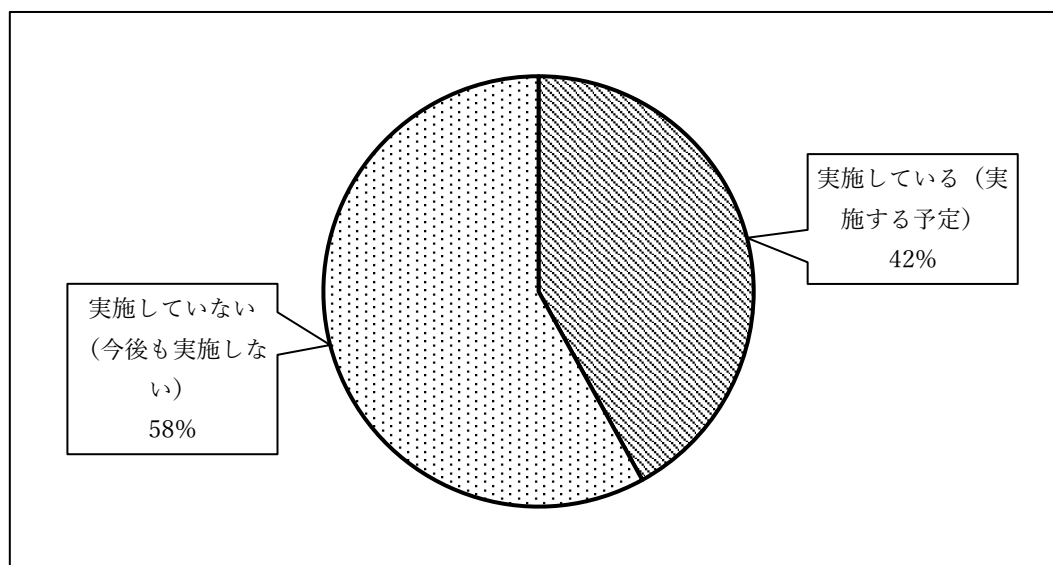
- ・感染症拡大防止のため
- ・1年生の利用ガイダンス
- ・本年度は、できるだけ、密閉された空間での活動は行わないようにと考えているため
- ・図書館を利用した調べ学習よりも、タブレット端末を使用した調べ学習を行っている
- ・校外活動が全て中止となったため、必要がなくなった
- ・学校図書館が狭く、ソーシャルディスタンスが取れない。
- ・不特定多数が短時間で同じ本に触れる機会を作らないため
- ・図書室が換気できない点

<考察>

学校図書館を活用する活動について、実施している（実施する予定）と回答した学校は48%、実施もしていない（今後も実施しない）と回答した学校は52%だった。

記述意見からは具体的な活動内容として、調べ学習や読書推進活動、図書委員会による活動などが挙げられた。工夫した点として、密を避けるため、人数制限や時間の分散、手洗い、消毒の徹底、座席指定や飛沫防止パーテーションの利用などが挙げられた。未実施の理由・課題となった点としては図書館の大きさや換気機能が十分でないことから、利用を控えている学校もあることが分かった。

（6）キャリア・パスポートの作成と活用



① 工夫した点

- ・表紙のみ作成、年度末にとじ込み
- ・オンライン会議システムで活用
- ・資料を保存できる個人ファイルを作成し活用
- ・事前事後学習 年間指導計画との関連の指導
- ・今年度の状況に合わせて、9月から活用を開始し、データでも保存するようにした
- ・職員会議で活用方法などの共通理解
- ・学期の始めと終わりに活用している
- ・面談での活用、従来の学期の反省との併用
- ・次年度から実施するために、現在形式を検討中
- ・校内の進路学習部が立てた計画に従い適切に実施されている
- ・区で作成している冊子を活用（ただし、記入できる項目が限られる）
- ・学校行事の前後で
- ・ワークシート等をファイリングする程度の取り組み
- ・これまでのフォーマットを基に作成した

- ・教育委員会より配布されたキャリア・パスポートの活用例を参考に指導
- ・道徳や総合的な学習の時間で取り組む内容と重複しないように計画し作成した
- ・各学年の学校改革部市民科担当教員が中心になってキャリア・パスポートの活用計画を作成
- ・進路指導部で書式を提案
- ・年度当初、課題と共に配布し、各家庭で職業や仕事に関する話をインタビューする活動に使用した
- ・基本のものを本校の形に作成し、年度当初行う活動を実施した
- ・本校独自の内容のものを作成
- ・総合的な学習の時間で活用させていく予定
- ・学校作成の「自分でつける通知表」をもとに、作成中
- ・学期末に実施
- ・生徒が自分の学習や活動の状況を記入し、ポートフォリオを作成している
- ・各生徒にデジタル入力を行わせている
- ・最初に学年集会でガイダンスを行った
- ・学期の目標設定と振り返り
- ・生徒に長期計画→中期計画→短期計画の流れを意識させた
- ・コロナによる学校行事等の変更を反省させることが工夫といえば工夫である
- ・例年実施していた学期末の振り返りアンケートとのすり合わせ
- ・いつでも活動を振り返ることができ、今後の進路に生かせるようにしている
- ・振り返りができるようにファイルにまとめる 家庭でも確認できるようにする
- ・保護者からの言葉については、生徒一人一人の自己有用感を伸ばすねらいで、学校だより、学年だより、面談等で協力依頼している。教師の言葉については、担任の負担が大きくなるところが課題だが、時期を決めて記入依頼をしている
- ・小学校と連携して、一貫した指導
- ・内容や目的の周知・実施時期の周知・学区の小学校との情報の共有
- ・学年の特性を生かした活動
- ・小学校、各学年との連携を図り、生徒が将来への見通しをもって学校生活を送ることができるように配慮した
- ・近隣小学校も同じもののフォルダーをキャリア・パスポート用に購入して使用するよう、小中で申し合わせをした
- ・教室に掲示
- ・パスポートの保管場所
- ・働く理由を考えてからの記入で身近に感じさせる

② 未実施の理由・課題となった点

- ・9年間を見通した学園独自のキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進しているため
- ・準備をしている最中であるため
- ・市として中学校には未導入
- ・検討、作成中
- ・よく分からないため
- ・まだ、教員同士で話し合いを進めていない

<考察>

キャリア・パスポートの実施については、実施する予定を含めて「実施している」が全体の42%で、「実施していない」が今後も実施しない割合を含めて58%だった。

活用の際には、教育委員会から配布された活用例を参考にしたり、学校行事の前後や総合的な学習の時間に実施したりして、道徳や総合的な学習の時間の内容と被らないように計画していた。形式は、既存のものを活用したり、自校のこれまでのフォーマットを基に作成したりするなど、工夫していた。

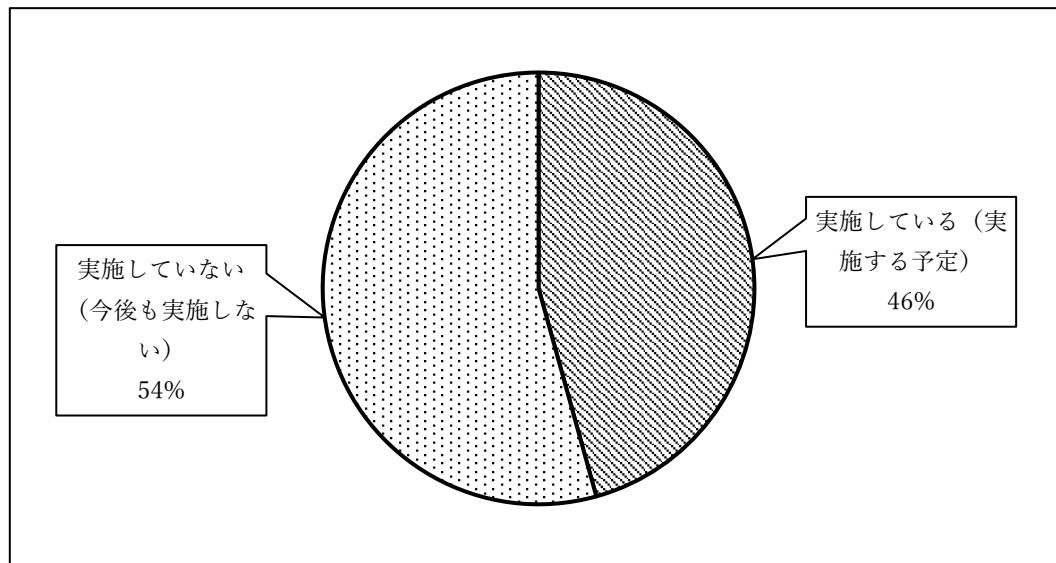
取組では、最初に学年集会でガイダンスを実施したり、学期の目標を設定し振り返り活動を実施、学期末の振り返りアンケートとすり合わせをしたりして、今後の進路に生かせるようにしていた。また、生徒が個別に書いたりデジタル入力したりして、長期→中期→短期計画の流れを意識させていた。

各学年との連携や小学校と情報の共有で、生徒が将来への見通しをもって学校生活を送ることができるように配慮していた。また、生徒がいつでも確認できるようにパスポートの保管場所も工夫していた。生徒一人一人の自己有用感を伸ばすねらいで、「保護者からの言葉」を依頼したり、「教師の言葉」を記入したりしていた。「教師の言葉」は、担任の負担が大きくなることが課題として挙がった。

市として中学校は未導入という学校や、校内で話し合えていないのでよく分からないなど、なかなか進んでいない状況も見られた。

2 生徒会活動

(1) 生徒総会



① 工夫した点

全校生徒が集まり実施した際の工夫

- ・マスクの着用
- ・密にならない（距離をとる）
- ・短時間での実施（台本をつくる、事前に質問を集約する）
- ・会場を体育館から校庭に変更した

全校生徒が集まらない形で実施した

- ・音声による全校放送で行った
- ・テレビ放送で全校放送し行った
- ・オンライン会議システムを使用して実施した
- ・学級ごとに書面で実施した
- ・議決は学級委員が集約し、フロアごとに集計し本部役員に報告した
- ・代表生徒が体育館に集まり、他の生徒は教室（放送、オンライン会議システム）で参加した

② 未実施の理由・課題となった点

- ・感染症予防のため
- ・生徒の活動が密になることを避けるためと授業時数の確保のため
- ・文面による活動方針の周知を行った
- ・全校生徒が体育館に集まることを避けた
- ・新型コロナウイルスの影響を受け、本年度は中止とした
- ・市教委の判断（複数の学年が一堂に会する活動は実施しない）
- ・教育活動の制限緩和前のため日程面で実施が困難であったため 半年間の振り返りに当たる中間報告会との抱き合わせで実施
- ・全校生徒が集まるのが難しい状況だったため また、休校・分散登校中であり、生徒のいろいろな組織が発足しておらず準備が整わなかった
- ・議案内容の配布と各教室での承認、委員会での質問等の対応で対処
- ・学校がやらない方針だから
- ・全校での集会が行えないため

<考察>

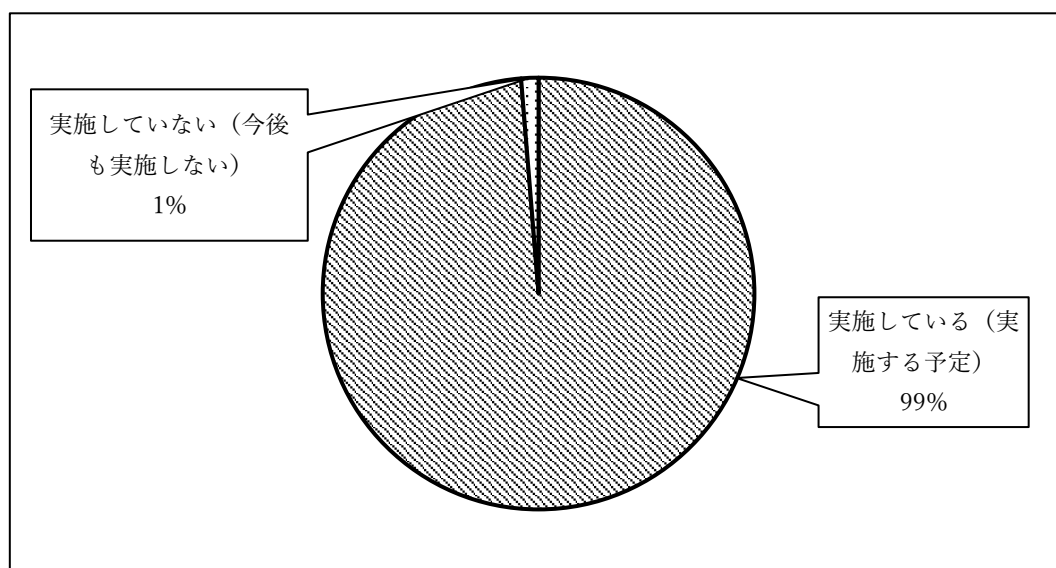
生徒総会を実施したと回答した学校は46%で、実施しなかった（今後も実施しない）と回答した学校は54%だった。記述意見からは実施した際の工夫として、生徒全員が集まった集会にならないように「放送」「オンライン」を活用して行っている学校が多くあった。環境が整っていない中でも、「紙面」による総会を行った学校もあった。質問を学級代表が代理で行い、質問者が多く集まらないように工夫をしている学校もあった。

実施できなかった理由としては、「1学期（前期）については臨時休校期間であったため、組織作りが間に合わず、総会を行わなかった」「市教委の判断」「学校がやらない方針」というものがあった。

ただ、半数以上の学校が実施しなかった（今後も実施しない）と回答していることから、生徒会活動の引き継

ぎが課題となったと思われる。

(2) 生徒会役員選挙



① 工夫した点

感染症拡大防止のため立合い演説会実施の工夫

- ・校内一斉放送により実施（音声のみ、テレビ映像）
- ・オンラインで実施（同時中継、録画）
- ・生徒間の間隔を確保（2 m）して体育館で実施
- ・時間を短縮した
- ・1年生のみ体育館で実施（密を避ける等感染予防をして）
- ・場所を体育館から校庭に変更して実施
- ・候補者が各教室に出向いた
- ・紙面での確認場面を増やした

投票についての工夫

- ・使用する筆記用具を共有しない、私物使用
- ・学級ごとの投票

② 未実施の理由・課題となった点

- ・放送などで実施予定。

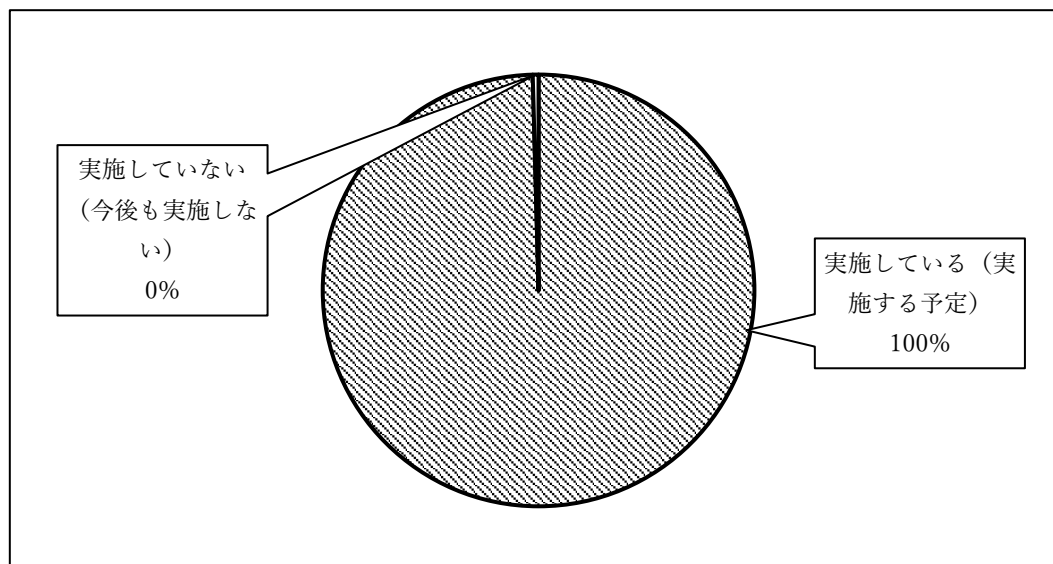
<考察>

生徒会役員選挙を実施したと回答した学校は99%であった。記述意見からは実施した際の工夫として生徒総会と同様に、会場が密にならないように「放送」「オンライン」を活用して行っている学校が多かった。1年生のみ体育館で実施し、他の学年はオンラインで実施した学校もあったが、1年生にとっては、生徒会活動について実際の経験をする場となったと思われる。また、会場を体育館から校庭に変更して実施した学校もあった。

運営上の工夫としては、短時間で行う、紙面での確認場面を増やす、候補者が各教室に出向く、という工夫をした学校があった。また、投票する際に筆記用具は共有しない、学級ごとに投票した学校があった。

生徒会活動は異学年が共に自治的な活動を行い学校文化を創り、継承していく場であり、全校が一堂に会することができない状況が続く中で、日常の活動工夫していくことが必要である。

(3) 各種委員会活動



① 工夫した点

- ・ 上級生が下級生に教え、伝統を受け継ぐ姿勢をもたせる
- ・ 委員会前に委員長会を毎回実施
- ・ 生徒朝礼による活動報告と呼びかけの機会を設ける
- ・ 新しい生活様式を実践するための啓発活動
- ・ 特別支援学級の生徒も入り学校全体で委員会活動に取り組む
- ・ 中央委員会は本部役員と委員長のみの代表者会形式
- ・ 中央委員会は専門委員長と学級委員で構成
- ・ キャンペーンの実施と広報活動の実施
- ・ 生徒の自主的な活動の支援・指導
- ・ 短時間で実施
- ・ 委員会週間を設け、多くの生徒が集まらないようにした
- ・ 少人数で実施
- ・ 密を避けて実施
- ・ 広い教室で実施
- ・ 各学級の教室を使わず空き教室で実施
- ・ 使用教室を分散（隣り合わない）
- ・ 会議の際、対面をなくし前向き
- ・ 手洗いの徹底
- ・ マスク着用
- ・ ゴーグルの着用
- ・ 飛沫防止ガードの使用
- ・ 窓開け
- ・ 身体接触を避ける（ソーシャルディスタンスを保つ）
- ・ ICT活用
- ・ 活動内容を精選
- ・ 回数を減らす
- ・ 教室を使用したあと消毒

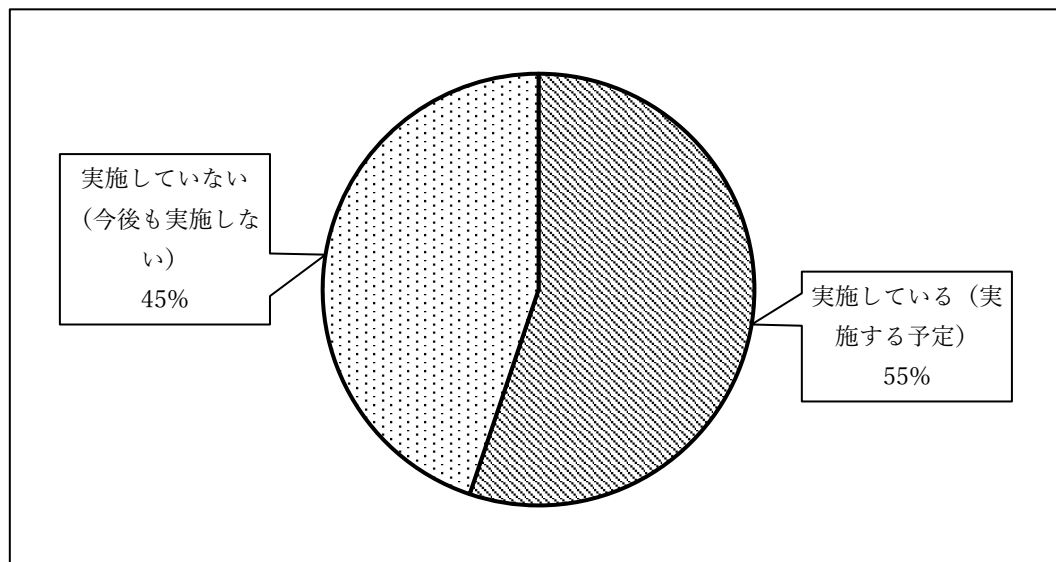
② 未実施の理由・課題となった点

記載なし

<考察>

ほとんどの学校が各種委員会活動を実施していた。多くの学校において、新型コロナウイルス感染症感染予防ガイドラインに沿って活動が行われ、活動を中止した学校は見られなかった。これまでの活動内容に感染拡大防止の啓発活動を加えた学校も数校あった。

(4) 挨拶運動



① 工夫した点

- ・教員主導ではなく、生徒会役員（生徒会長）の呼びかけによって進めた
- ・ソーシャルディスタンスを保ち挨拶 マスクの着用
- ・ポスターなどを使った呼びかけなどに切り替えている
- ・声に出してもマスク着用で小さな声で行ったり、会釈を交わすなど
- ・通常通りの実施だが、大声を出せない代わりに会釈をする
- ・生徒会役員が中心に、学期に1回1週間だけ外で行っている あまり負担にならない
- ・回数の削減
- ・学級委員会のみ、廊下で実施 7:50~8:05 で時間を短縮している
- ・本校では、生徒の登校は学年ごとに通学門を変えて密にならないような工夫
- ・挨拶運動も月1回の土曜授業の日のみ、地域の方数名と実施
- ・校門前や校舎内での場所の工夫、参加者の募集(部活単位や、クラスでの有志など)
- ・生徒会役員のみ
- ・例年ボランティアを募っているが、今年度は生徒会役員及び各種委員会委員長が分担して実施した
- ・人数を減らして実施（小学校と合同実施は中止）
- ・校長・副校長が校門、裏門に立ち実施
- ・ハイタッチなど接触しない
- ・人数を制限し配置を工夫
- ・大声を出さない

② 未実施の理由・課題となった点

- ・感染症拡大防止のため
- ・密を避けるため
- ・指導する教員の勤務時間の問題 大きな声を出すことは望ましくない
- ・朝の健康観察をしているため
- ・臨時休業で行事等の予定が変わり本活動を計画できていない
- ・毎日あいさつ運動以上の活動をしているから
- ・小学校との合同行事のため、今年度はなし
- ・生徒の負担増加の機会を少なくするため
- ・発生している場面の増加を避けるため
- ・生徒間の接触が多くなるため
- ・登校時には、マスクをしていない場合もある
- ・マスクを着用しているが飛沫感染を防ぐため
- ・対面での挨拶となるため

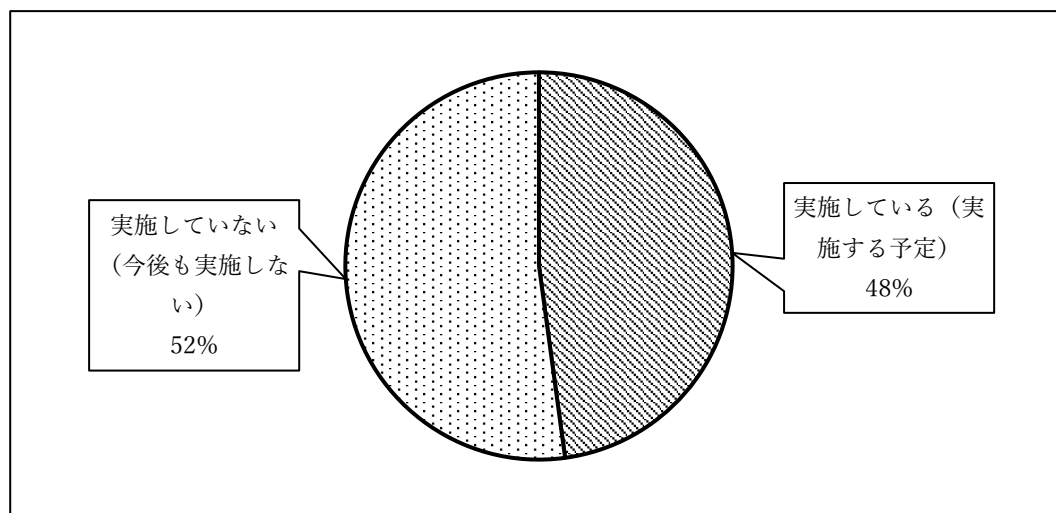
<考察>

挨拶運動を実施している（実施予定を含む）と回答した学校は55%、していない（今後も実施しない）学校が45%であった。実施している学校を見ると、ソーシャルディスタンスを守るための工夫が目立った。

マスク着用はもちろんのこと、大きな声を出さない、または会釈やポスターなどで済ませる、人数制限を行い、少人数で実施し、接触することを避ける、などが挙げられた。実施していない学校を見ると、感染防止のため、密を避けたり、対面や接触が多くなる機会を避けるためという回答が多かった。また、教員のコロナ対策に関わる朝の活動もあり、生徒活動に手が回りにくいということも挙げられていた。

回答を見ると、挨拶運動はほとんどの学校で取り組んでいることが分かった。コロナ禍ということで、安全面から生徒にも教員にも負担がかかり、諸活動が減っているのが現状である。そういった中でも、挨拶運動は生徒の主体的な活動として、工夫しながらも続けていってほしいと考える。

(5) ボランティア活動



① 工夫した点

- ・地域清掃を通して、地域に対する愛着を高めるように声かけをした
- ・高齢者施設にクリスマスカードを贈る
- ・参加人数を制限して実施した
- ・ユニセフ募金を密を避けて行う
- ・落ち葉掃き清掃、用務主事との連携
- ・生徒会を中心とした呼びかけで地域清掃活動や緑の羽根募金を行った
- ・希望者のみの参加とする
- ・マスク着用、身体接触を避ける ソーシャルディスタンスを保つ
- ・触れ合わなくてもできるボランティア活動のアイデアを募集
- ・募金活動などを行っている
- ・外部での活動は自粛しているが、リサイクル活動等は適宜行い、呼びかけも行っている
- ・ペットボトルキャップ回収など安易なもののみ実施
- ・夏休みの花壇の水やり等、校内でできることを実施している
- ・消防隊の募集も実施した
- ・小グループに分け、短時間での実施を予定
- ・校外ではできないので、夏休みに花の水やり、秋に落ち葉掃きなど校庭でできるものを行う
- ・部活動加入生徒が廃品回収に参加した
- ・挨拶運動時に、外でエコキャップ、ベルマークなどを回収、呼びかけている
- ・募金活動を行う際に、フェイスシールドを着用するなどして感染対策を行った
- ・曜日ごとに人数を限定して実施
- ・校内で実施できるものを生徒と検討、実施している
- ・できる限り多くの生徒が参加できるように、長期休暇や土曜・日曜等に地域やPTAと連携して実施している
- ・九州豪雨災害募金活動（登校時3カ所に分かれ実施した）
- ・学校便りを地域の方々に投函するボランティア活動を実施

② 未実施の理由・課題となった点

- ・感染症拡大防止のため
- ・受け入れ側の都合

- ・地域の清掃活動について、学校の教育活動外で自宅周辺を家族と清掃する内容に変更した
- ・外部の生徒（教員）が参加することが適切でないと、現状を鑑みて判断したため
- ・訪問等の場合、はっきりとは言わないが、受け入れ先が難色を示している
- ・コロナの関係で行事が中止になってしまった
- ・ボランティアとして、地域から求められていない 地域のイベントの中止
- ・地域行事の中止、老人養護施設、ケアセンター等の他者の立ち入り禁止による

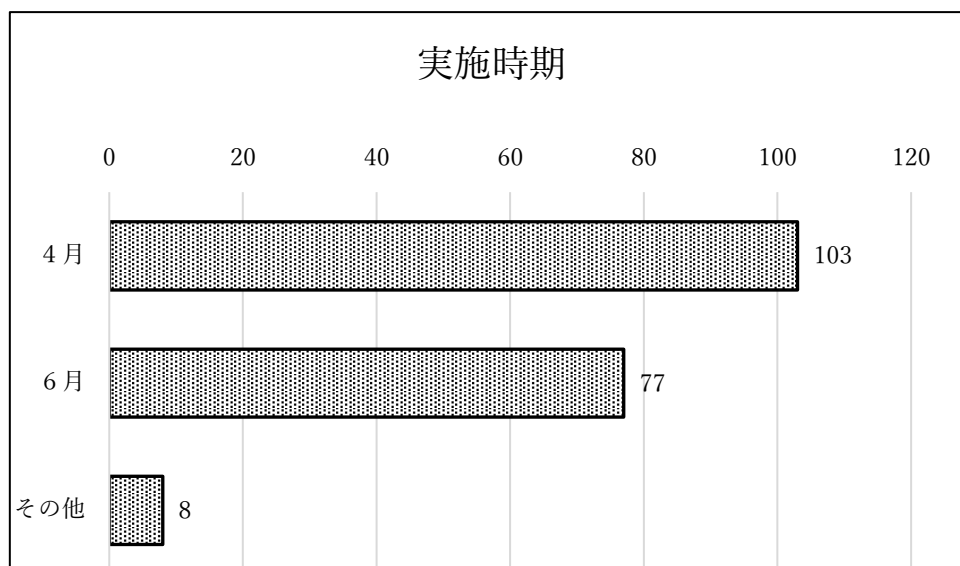
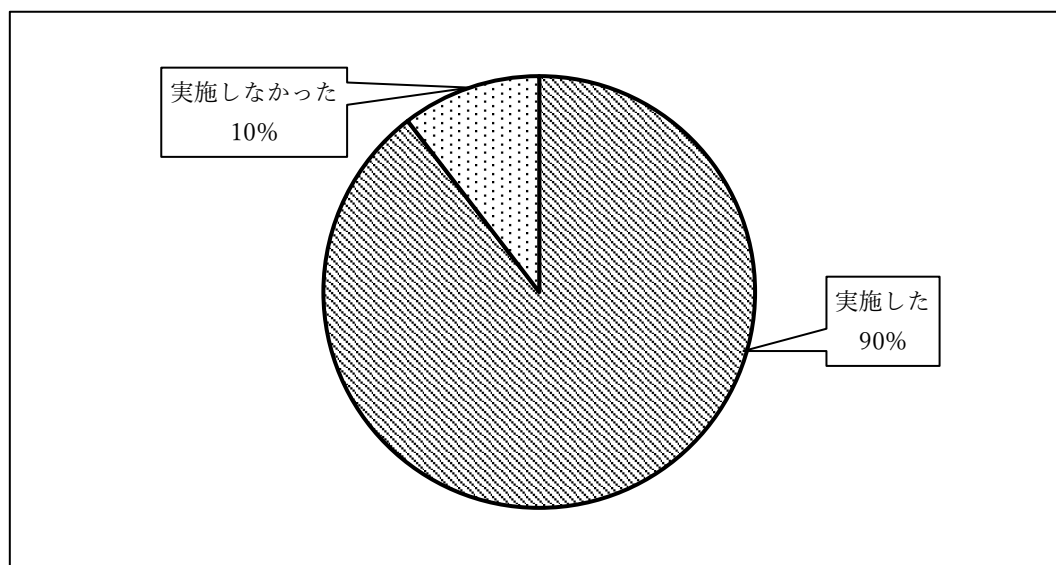
<考察>

通常であれば、ほとんどの学校が力を注いでいる活動であるが、「実施している」の回答は48%、「実施していない」の回答が52%であり。半数以上の学校が実施を避けた結果であった。校外での活動が多く、受け入れ側の都合や感染防止対策が不十分になることを鑑みて判断された結果と考えられる。

そんな中でも校内ではリサイクル活動、敷地付近の清掃活動や花への水やり活動、募金運動など、参加人数や時間を工夫しての実施や地域やPTAと連携して可能な限り生徒が参加しやすいような工夫をしていたことも分かった。

3 学校行事

(1) 入学式・始業式



① 工夫した点

- ・来賓なし、人数制限（生徒1人につき保護者1人）
- ・校歌を歌わない（CDで流すのみ）
- ・人と人との距離を十分にとるように座席を配置
- ・新入生のみ参加（保護者は各家庭2名まで）

- ・マスク着用 うがい手洗い励行 手指消毒
- ・オンライン会議システムの活用
- ・事前に体温や連絡先を記入するカードを配り、対応を行った
- ・校庭にパイプイスを並べて行った
- ・始業式は放送室で行い、各教室のテレビで視聴した
- ・市の方針で校庭で校長式辞と新入生誓いの言葉のみで15分程度で終了 新入生入退場や式歌は一切行わなかった
- ・始業式は学年ごとに時間をずらして実施した
- ・始業式の校長の話は文書にて配布
- ・分散登校の中で実施
- ・学年ごとに学年集会のようなかたちで、管理職と学年教員、学年生徒のみ参加
- ・集合写真撮影は中止
- ・1学年のPTA役員決めは、学級ごとに各教室に分散で実施
- ・ビデオ撮影し、DVDを作成し記録映像として配布
- ・代替としてクラス単位で10分程度の簡易的な「新入生を迎える会」を実施

② 未実施の理由・課題となった点

- ・区のガイドラインによる
- ・未実施の理由は新型コロナ感染防止のため

<考察>

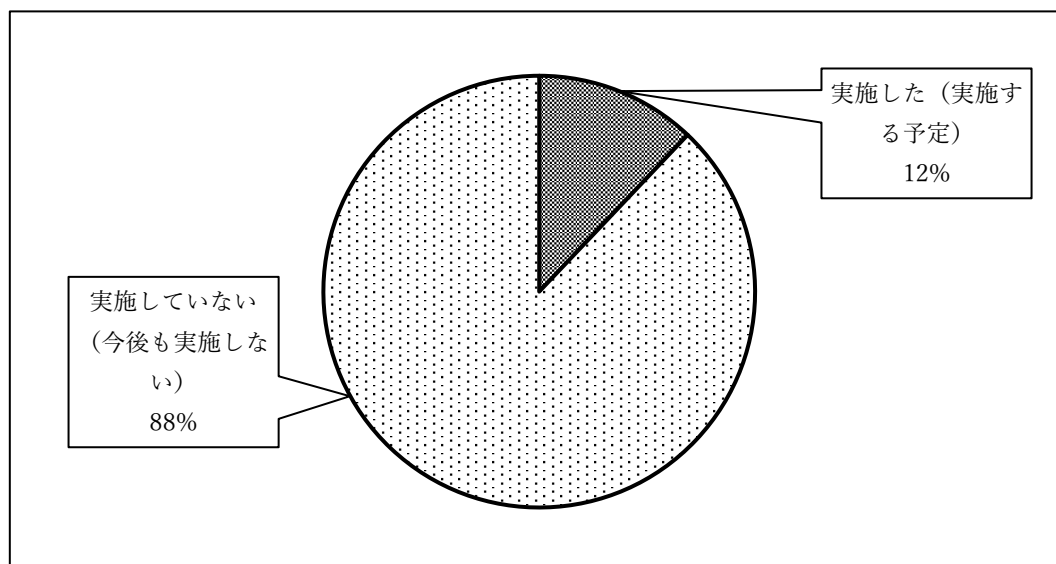
学校臨時休業となった年度当初であったが、入学式・始業式を実施した学校は90%であった。実施しなかった学校は10%という回答であったが、そのほとんどが「式」から「集会」という名前に変更しての開催したり、時期や方法を工夫して違う形での実施していることが分かった。

入学式では来賓無しで保護者1名のみといった人数制限をし、校歌等は歌わず、祝辞は掲示や紙面配付で対応していた。またはオンラインシステムを利用していた学校もあった。

始業式は、学年ごとに時間を変え分散しての実施など3密を避け対策をとって実施していることが分かった。

慌ただしい中ではあったが、行政機関からの指示を受けながらも、本来の学校行事に近づけるための努力と工夫がみられた。

(2) 離任式



① 工夫した点

- ・学校便りで離任された先生からの手紙を掲載した
- ・生徒が直接お礼の言葉を述べたり、話を聴く機会がもてればよかった
- ・生徒のビデオメッセージ
- ・式としては行わず、生徒メッセージ集の作成
- ・職員メッセージを異動した先生に送った
- ・生徒に手紙を書かせ、束ねたものを離任者に郵送した
- ・生徒がお世話になった教職員に声かけを行い、感謝の気持ちを伝えさせている
- ・事前録画した離任者の話と生徒お礼の言葉を各教室の電子黒板に映し離任式とした
視聴後、生徒はそれぞれお世話になった先生に感謝の手紙を書いた

- ・オンライン会議システムで実施
- ・ソーシャルディスタンスの確保 密を避ける、マスク、距離
- ・体育館の三密回避を確保した。窓開放、3 m間隔等
- ・体育館の座席の前後左右に余裕をもたせた
- ・1年生の不参加（1年生は下校させ、2・3年生のみで実施した。）
- ・3年生のみ体育館 その他の生徒はオンラインで参加
- ・3月の修了式後に実施した
- ・島しょなので、毎年3月に実施
- ・令和2年3月の実施
- ・今後実施する予定
- ・オンライン実施
- ・8月末に短時間で実施
- ・9月に実施予定 体育館に全校生徒が入れない場合は、リモートで実施する
- ・実施する予定だが、見通しが立っていない

② 未実施の理由・課題となった点

- ・感染症拡大防止のため・密を避けるため
- ・適当な時期に設定できなかったため
- ・授業時数確保が最優先課題となったため
- ・毎年行っていない
- ・区（市）の判断（複数の学年が一堂に会する行事は中止）ガイドライン（学年を超えた活動は当面の間できるだけ避けること）に基づき判断した
- ・時期的に不相応と判断
- ・臨時休業のため
- ・大勢で一か所に集まることは難しい
- ・学級を超えての集会ができない
- ・体育館使用不可 体育館に全校集められない（体育館では三密を避けられないため）
- ・異動された教員も多く、時間も長くなる
- ・他校からの訪問が難しい。
- ・転出教員が出張して参加することができない
- ・外部、卒業生等の対応も難しい（学校外から人を入れることを避けるため）
- ・対象の教員がいなかったため、最初から未実施の予定だった
- ・時間確保ができなかったため 離任者を呼べる状況ではなかったため
- ・学校がやらない方針だから
- ・放送での実施も時間的に無理があった
- ・様々な調整がつかなかったため
- ・保護者の理解が得にくい

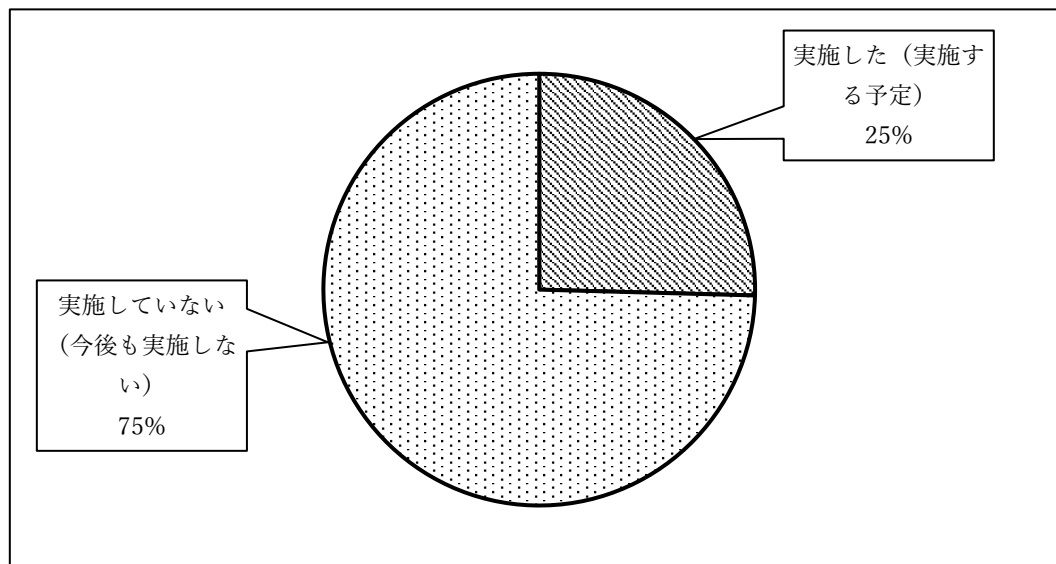
<考察>

離任式については、実施したと回答した学校は 12%で、実施しなかった(今後も実施しない)と回答した学校は88%だった。

実施において工夫した点は、学校便りでの言葉の紹介、教室に分散し、ビデオメッセージ視聴による実施、代表生徒の手紙や転出職員メッセージの郵送、オンラインでのビデオ会議システムを活用したやりとり等を行った。2、3年生のみ（または3年生のみ）体育館で、座席間隔に十分な余裕をもたせて実施される学校もあった。

離任式が未実施であった理由については、3密を避けるためという理由の他、教育委員会や学校のガイドラインに基づき学級を超える集会ができない、転出職員の調整がつかず、他校から集合することが困難であった、生徒指導の準備時間がもてなかったなどの理由や、卒業生の対応や保護者の理解が得られにくいなどの理由があった。

(3) 新入生歓迎会



① 工夫した点

- ・時間短縮（内容の精選）、規模の縮小、新入生による体験はなし（部活動紹介等）
- ・在校生の人数を絞って、密を避けて実施
- ・2・3年生は、生徒会役員、各専門委員長及び各部長のみ出席して、各活動の説明のみを行った
- ・各教室で参加し、放送室からのテレビ中継で実施した
- ・生徒会役員や部活の部長が1年生の教室を順番に回って説明した
- ・体育館に集まる学年を2学年までとして、3密を防いだ
- ・1年生だけ体育館に間隔を開けて座らせた 部活の実技は無し
- ・各部活・各委員会の発表する上級生の人数を3名以下にし、校庭で実施した 1年生の座席も十分な間隔をあけた
- ・体育館の3密回避を確保した 窓開放、3m間隔等
- ・生徒会役員生徒が中心になって、各委員会や部活動の紹介ビデオを作成し、1年の各教室で視聴した
- ・部活動紹介のみを実施
- ・各委員会・部活動が文章でそれぞれの活動等を紹介したものを、1年生に配布した
- ・オンライン会議システム利用によるリモートでの部活動紹介や委員会紹介
- ・生徒会新聞で新入生歓迎号を作成し、歓迎会で伝えたい内容を整理してまとめ各学級に配布し、読む時間を設けた。

② 未実施の理由・課題となった点

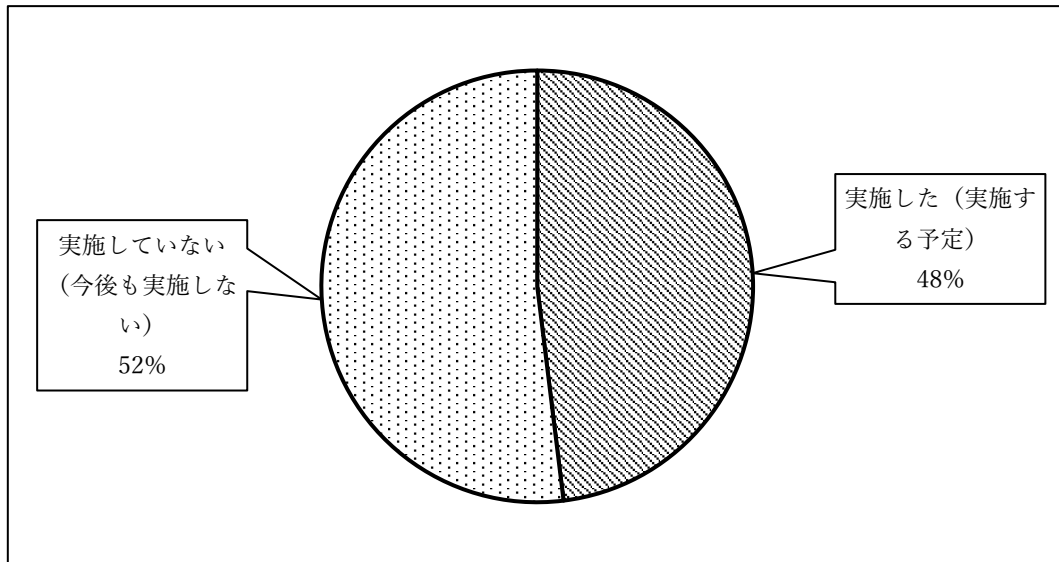
- ・感染症拡大防止のため
- ・例年、実施していない
- ・密を避けるため
- ・全校で集まることができなかったため
- ・緊急事態宣言により臨時休業になったため実施しなかった
- ・異学年の接触を避けるため実施しなかった
- ・臨時休校期間の長期化により時期を逸し再設定が難しかった
- ・休校のため、上級生の準備期間が確保できなかったため
- ・学級を超えての集会ができないから
- ・放課後の活動に制限があり、準備時間を確保できない
- ・市教委より、体育館に2以上の学年が集まることを禁止する指導があったため
- ・全校集会を区教委より禁じられているため
- ・市教委のガイドラインに基づき、体育館に全校生徒が集合して活動できる状況ではないと判断した
- ・授業時数確保のため
- ・保護者の理解が得にくい

<考察>

新入生歓迎会については、4分の1（25％）の学校で実施された。実施にあたって工夫した点は、時間短縮や規模の縮小がほとんどであった。具体的には、体験や実演は未実施、2・3年生は代表者のみの参加、TV中継、代表者が1年生の教室を巡回、教室での紹介ビデオの視聴、紹介冊子の配布などであった。

新入生歓迎会が未実施であった理由については、3密を避けるためという理由の他、臨時休業期間中のため、上級生の準備時間がなかったなどの理由や、教育委員会や学校のガイドラインに基づき学級を超える集会ができない、保護者の理解が得にくいなどの理由があった。

(4) 運動会



① 工夫した点

- ・感染症拡大防止のため、来賓なし、ムカデ競争を取りやめ
- ・密を避けた種目で10月に実施予定
- ・実施競技の精選、観客の制限
- ・座席、入退場、競技等すべての活動で両手間隔を維持することを基準として計画した
- ・「体育発表会」として三密を避けた競技実施とダンス実施
- ・学年種目は中止とする予定
- ・小中合同から別開催にする
- ・個人種目を中心に無観客で実施予定
- ・学年ごとに、スポーツ大会を実施する
- ・走る競技のみで半日、無観客で実施予定
- ・学年種目は無し、保護者の見学も3年のみ2名まで
- ・大規模学校のため学年ごとに球技を含めたスポーツイベントを実施 団体競技は行わない
- ・中3の保護者のみ見学を許可する PTA がLIVE 配信を計画している
- ・組体操を棒体操へ 綱引き、玉入れ中止、開閉会式の間隔等
- ・秋に学年で日を分けて行う予定、密になる種目をしない午前中、接触競技なし
- ・内容を縮小して3月に実施予定
- ・各学年ごとに2時間実施
- ・短距離走、リレーなどの個人種目のみの実施予定
- ・学習発表会という形で2学期に実施予定
- ・学年別学級対抗運動会を9～11月の土曜授業日で行う予定
- ・各学年ごとに2種目
- ・非接触型競技による
- ・体育発表会という形で行う予定
- ・ソーラン節発表会
- ・学習発表会という形で運動会に替わる会を計画中
- ・体育の授業でできるものを行う予定

② 未実施の理由・課題となった点

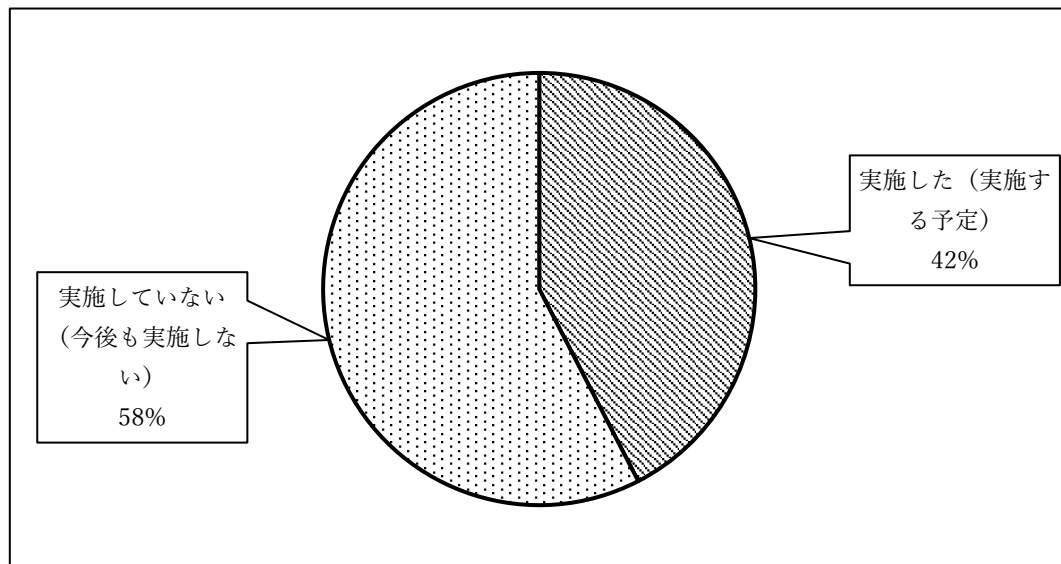
- ・体育の授業において用具を使えない等の制約が多々あることも考慮して決定した
- ・区のガイドラインによる
- ・臨時休業により、練習・授業時間の確保が困難なため
- ・新型コロナウイルス感染症予防対策と授業時数確保のため
- ・当日、準備期間を含め、全校生徒が集まる機会が多いため 運動会の準備の期間もなかった
- ・学年種目や全員リレーが密になることと、バトンの共用できなかった。個人種目だけなら実施する意味がないと判断した
- ・生徒同士の接触のある競技が行えない中では、本校が行ってきた体育大会の趣旨に沿ったものに行えないと判断したから
- ・当時の感染状況や密を避けられない問題
- ・校長会の判断
- ・行事予定で春から移す場所がなかった

<考察>

運動会については、「実施した」が48%、「実施しなかった」が52%であった。実施にあたって工夫した点は、実施時期の変更、種目の精選、観客なしや制限、オンライン、学年別の実施など工夫して行われていた。

運動会が未実施であった理由については、自治体の意向が多かった。他には、他の学校行事と同様に感染防止のため、授業時数確保のため、休校で練習ができなかった、生徒同士の接触のある競技が行えない中では、本校が行ってきた体育大会の趣旨に沿ったものに行えないと判断したから等の理由があった。

(5) 文化祭（学習活動発表会）



① 工夫した点

- ・ 3学期に実施予定
- ・ 生徒のみへの公開で実施予定
- ・ オンラインシステムによる学習発表会を行う予定
- ・ 合唱コン、舞台発表、展示発表に分割し、名称変更して実施
- ・ 合唱コンクールのみ実施
- ・ 会場を公共ホールにするなど、ソーシャルディスタンスが確保できる会場を検討中
- ・ 合唱は各クラス1曲のみ、ひな壇は2段の例年より横長にして密を避ける
- ・ 午前と午後の部で分け、収容する人数が多くならないようにして、実施する予定
- ・ 休憩時間を例年の倍入れ、その際、保護者も学年や部活動ごとに入れ替え制とする
- ・ 部活動の紹介は希望のあった部活動を最小限の時間で実施
- ・ 合唱や吹奏楽部、演劇部などの舞台発表に関しては、中止や時間短縮予定
- ・ 作品展という形ではなく、授業の作品を学校公開の日に合わせて実施。
- ・ 学習発表会の形式で、展示活動に限定
- ・ 展示作品の削減、生徒見学時間の分散、鑑賞時間の短縮、人数の制限
- ・ 廊下等の展示発表を中心とし、日程も1週間程度設けて集客を分散させる
- ・ 見学時間をずらす
- ・ 学年別の実施

② 未実施の理由・課題となった点

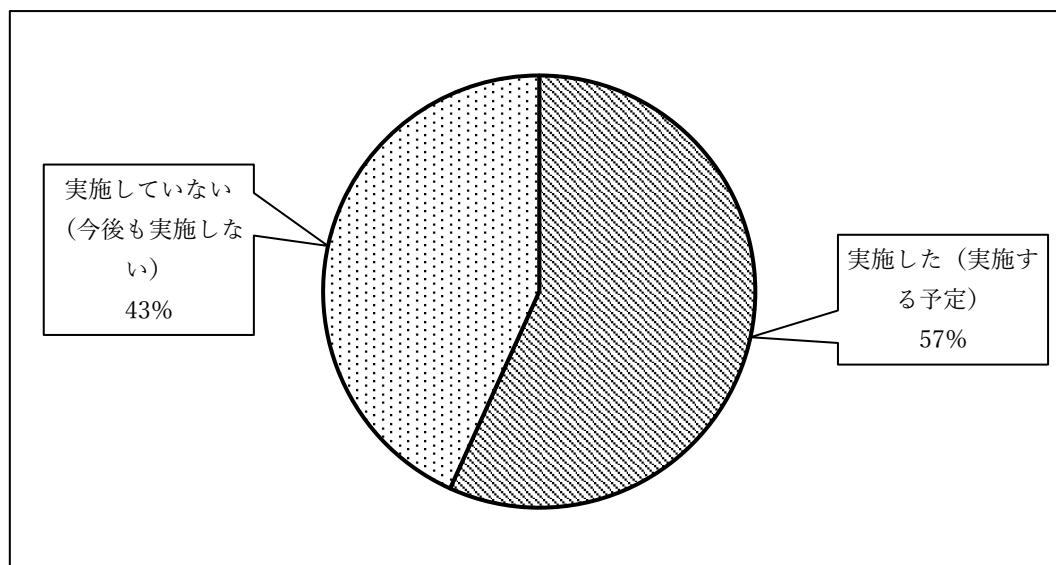
- ・ 例年実施していない
- ・ 区の意向のため
- ・ 感染拡大防止の観点から中止
- ・ 一つの会場に多くの人が集まる活動を避けるため
- ・ 働き方改革のため、今年度から実施せず
- ・ 授業確保のため
- ・ 学校行事の精選

<考察>

文化祭（学習発表会）については、「実施した」が42%、「実施しなかった」が58%だった。工夫した点と

して、発表内容を分けてそれぞれ時間や規模を縮小して実施している場合が多かった。舞台発表では、一同に集まる人数を少なくするために、時間や学年で分けたり短縮したりしていた。展示発表では、見学時に集まる人数を少なくするために、展示場所を分ける、展示期間を長くする、見学時間を学年で分けるなどの工夫をしていた。一方で、感染拡大防止や授業時数の確保のために中止としている学校もあった。

(6) 合唱コンクール（合唱祭）



① 工夫した点

- ・実施時期を10月から3月に変更
- ・合唱発表会という形に縮小し、体育館で合唱発表を行う形で実施する予定
- ・課題曲をなくし、自由曲1曲に縮小して実施予定
- ・各学年で行う予定
- ・ソーシャルディスタンスの確保
- ・映像記録による学年別実施
- ・会場の変更（市のホールから本校体育館へ）
- ・保護者席の間隔を取り、3密をさけるようにする
- ・保護者の参観を入れ替え制にする
- ・他学年視聴は1つの学年のみ
- ・ホールからの指定で入場者が約3分の1になっているので、保護者は参観せず、生徒だけでおこなう
- ・座席を離して座る
- ・例年のプログラムを短縮して半日で実施（昼食をとらない）
- ・換気の徹底
- ・舞台と客席の十分な距離の確保
- ・生徒は教室でオンラインシステムを活用して鑑賞
- ・市文化会館で実施予定。保護者の参観は未定
- ・消毒
- ・広い区の施設で開催
- ・学習発表会と同日開催
- ・フェイスガードを使い実施する予定
- ・オンラインシステムによる同時中継を実施
- ・録音での実施

② 未実施の理由・課題となった点

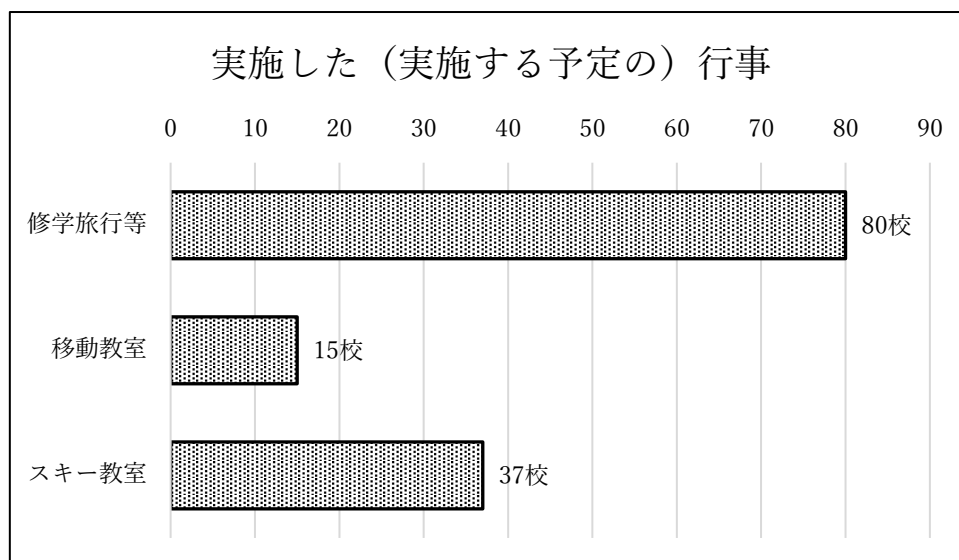
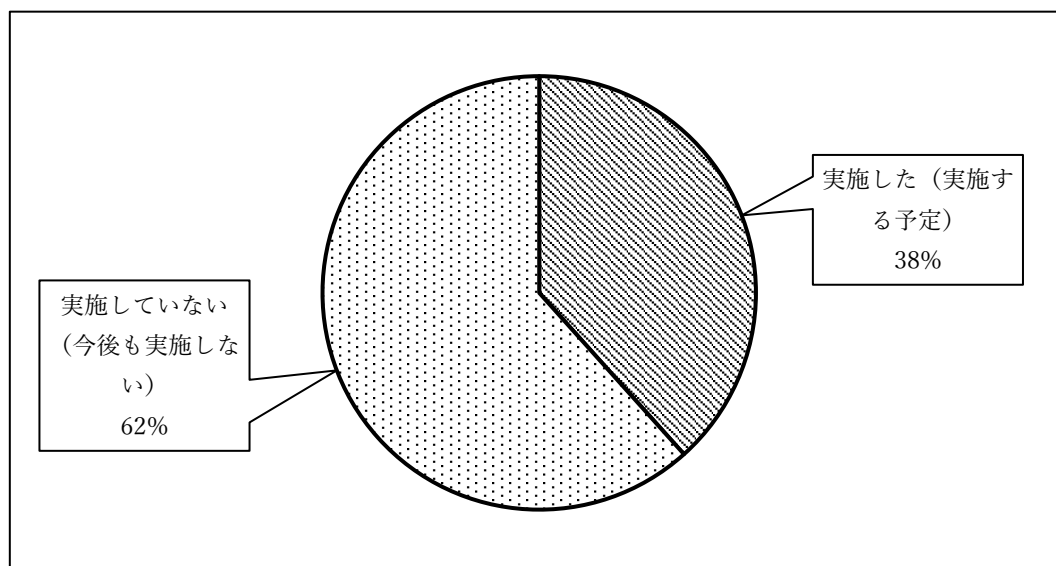
- ・新型コロナウイルス感染防止のため
- ・区のガイドラインによる
- ・社会情勢と、感染拡大防止の観点から中止
- ・現時点で「歌う」という行為は難しい（人前では特に）
- ・音楽の授業での歌の練習ができない 期間中の練習も感染予防の観点から見ると難しい
- ・ウイルスの飛沫や三密が避けられないから
- ・市のホールを借りて行うため、市から早い段階で中止が決定した

- ・小学校と合同で実施するため、大人数で発声を伴う活動を行うことが困難であるため
- ・自治体全体で中止が決定したため
- ・学校で判断 授業確保のため
- ・会場のコロナ対応の利用方針から、座席数が大幅に減り、全校生が一堂に集まらない状況になったため
- ・大きな声で歌ってはいけない状況なので
- ・感染防止対策との両立が難しいから

<考察>

合唱コンクール（合唱祭）を実施した中学校は57%で、全体の半数以上であった。実施する会場や開催日の変更、内容の縮小が工夫した点だった。他にも生徒の参観について、録画やオンラインシステムを活用したり、他学年の参観は一学年のみにして、密にならないよう工夫していた学校があった。保護者の参観についても、保護者席の間隔をとった学校や、入れ替え制にして、密にならない工夫をした学校があった。保護者は参観せず、生徒だけで実施した学校もあった。また、未実施の理由については、社会情勢と新型コロナウイルス感染拡大防止のため、区市や自治体で中止が決定したからという回答があった。課題として、音楽の授業で歌の練習ができないことや、大きな声で歌ってはいけない状況で、実施することが困難であること、実施したとしても、飛沫や三密が避けられず、新型コロナウイルス感染防止対策との両立が難しいことが挙げられた。

（７）宿泊行事（修学旅行、移動教室、スキー教室）



① 工夫した点

- ・これからの実施のため、状況によっては中止の可能性あり
- ・修学旅行の実施時期と行先の変更

- ・一泊か日帰り、関東近県に変更
- ・6月から9月に延期して実施予定
- ・移動教室をスキー教室に代替して2月に変更、修学旅行を3月に変更、夏季学園を中止
- ・現時点では、感染予防を徹底して行う予定
- ・感染状況を見ながら実施1か月前を目途に実施を最終的に判断する予定
- ・部屋割りにおける人数調整実施予定だが現在検討状況
- ・市のガイドラインにのっとりできることを行う
- ・7月を2月末に延期
- ・小規模校の利点を生かし、バス移動を増やし、新幹線等の電車異動ではこまめな手洗いの実施やアルコール消毒の徹底
- ・3月に延期した修学旅行は3月に1泊2日で実施予定
- ・1年生の移動教室は来年の5月に移動
- ・修学旅行は中止　スキー教室は現時点では実施予定
- ・都立学校のマニュアルに合わせる

② 未実施の理由・課題となった点

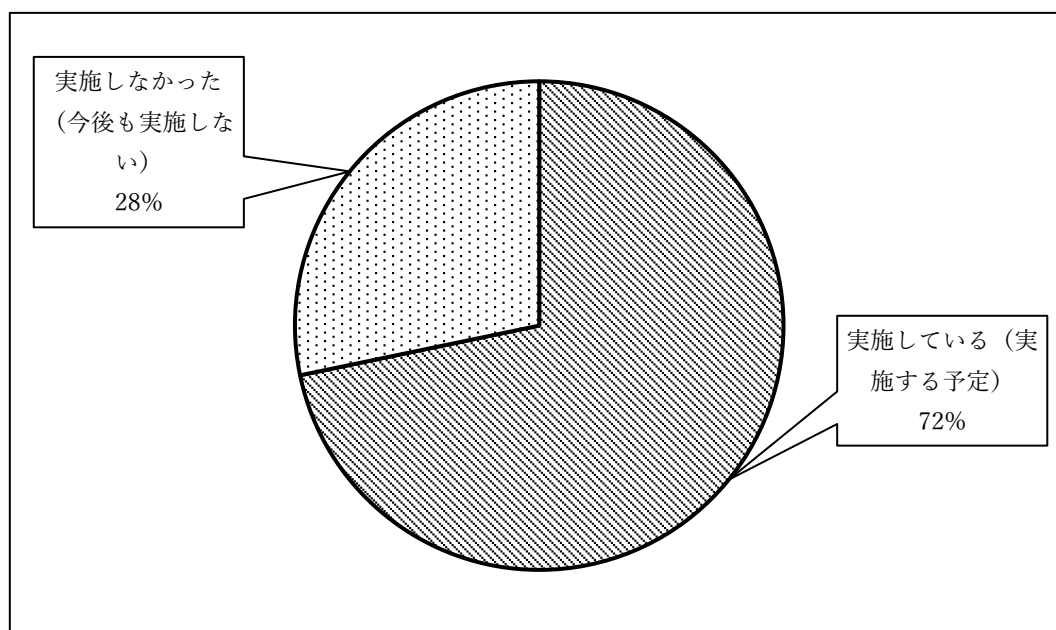
- ・教育委員会による区内宿泊行事全面中止
- ・12月までの宿泊行事中止という都のガイドラインに準じたため
- ・校長会と市教委で協議し決定した。宿泊先で感染者がでた場合の対応が難しい
- ・宿泊行事は検討中　安全を最優先
- ・修学旅行だけは、今のところ3月に延期としており、代替の学校行事ができないか検討していくこととなっている
- ・公共交通機関の利用、宿舎での生活や病院等の対応、生徒や教員が帰着できなくなる可能性
- ・密や感染時の学校対応、保護者対応のリスク上の問題等から

<考察>

宿泊行事（修学旅行、移動教室、スキー教室）について、実施した（実施する予定）と回答した学校は38%、実施していない（今後も実施しない）と回答した学校は62%だった。

記述意見からは工夫した点として、実施時期と行先の変更、部屋割りや移動手段の検討、変更などが挙げられた。未実施の理由・課題となった点としては、感染予防対策と感染時の対応や不安が多く挙げられた。宿泊行事が全面中止となった学校もあった。

（8）薬物乱用防止教室・セーフティ教室・交通安全教室など



① 実施・工夫した点

- ・三密を避けて実施予定
- ・オンラインでの実施が可能か検討中
- ・実施できるか検討中
- ・学年ごとに体育館で実施
- ・交通安全教室のみ実施予定
- ・セーフティ教室（スマホ・携帯安全教室）は9月中旬に実施予定

- ・ 2 学期以降に実施予定のものについては、状況を見て判断する 全校生徒で実施できない場合は学年単位で行うことも考えている
- ・ 2 学期に実施する予定
- ・ 現在は実施予定 依頼先と相談の上、決定予定
- ・ 秋実施
- ・ 年度当初や長期休業前など適切な時期の実施
- ・ 感染症対策については検討中
- ・ 講演会を校内一斉放送により実施する
- ・ 生徒のみの参加（保護者は不参加）
- ・ 校庭の実施で、間隔をあける
- ・ 学年ごとに分けて、3 回実施した
- ・ 教室で冊子の配布・説明で代替え
- ・ できるだけ生徒の密を避け、学級単位で実施
- ・ 各クラスでテレビで視聴
- ・ セーフティ教室は、各教室に講師を配置
- ・ セーフティ教室は、学年を限定して実施予定
- ・ セーフティ教室は校庭でスタントマンによる交通安全指導を実施する予定となっている
- ・ 情報モラル教室を各教室で実施した
- ・ 例年全校実施だが今年度は 1 つの学年にしばって実施
- ・ 薬物乱用防止教室は各教室で DVD を視聴
- ・ 薬物乱用防止教室は学年単位の実施をする予定
- ・ 薬物乱用防止教室はマスク、換気、密を避けて規模を縮小する
- ・ 生徒同士の距離をとり、感染防止対策を行いながら例年どおりで実施
- ・ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から形を変えた
- ・ 例年 3 項目を実施していたが、今年度はどれか 1 項目に絞って実施予定
- ・ 実施時期の変更、座席の配置、内容の精選による時間短縮など
- ・ 椅子に着席、間隔をあける
- ・ オンラインシステム利用
- ・ 机の向きは変えず体の向きを変えて行っている

② 未実施の理由・課題となった点

- ・ 新型コロナウイルス感染防止のため
- ・ 密を避けるため
- ・ 学校内で同様の内容を指導している
- ・ 授業実施を優先、書面にて学級指導
- ・ 講師招聘や、大勢が集まることを避け、学級で指導
- ・ 感染拡大防止のため講師を招聘できなかった
- ・ 市区の方針
- ・ 区のガイドラインにより学校判断で中止
- ・ 全校が集まる学校行事は基本的に中止
- ・ 集会形式で実施できないため
- ・ 1 学期予定のため、すべて中止 薬物乱用教室以外は今後も実施予定なし
- ・ 学校行事を精選した結果
- ・ 感染防止対策との両立が難しいから

<考察>

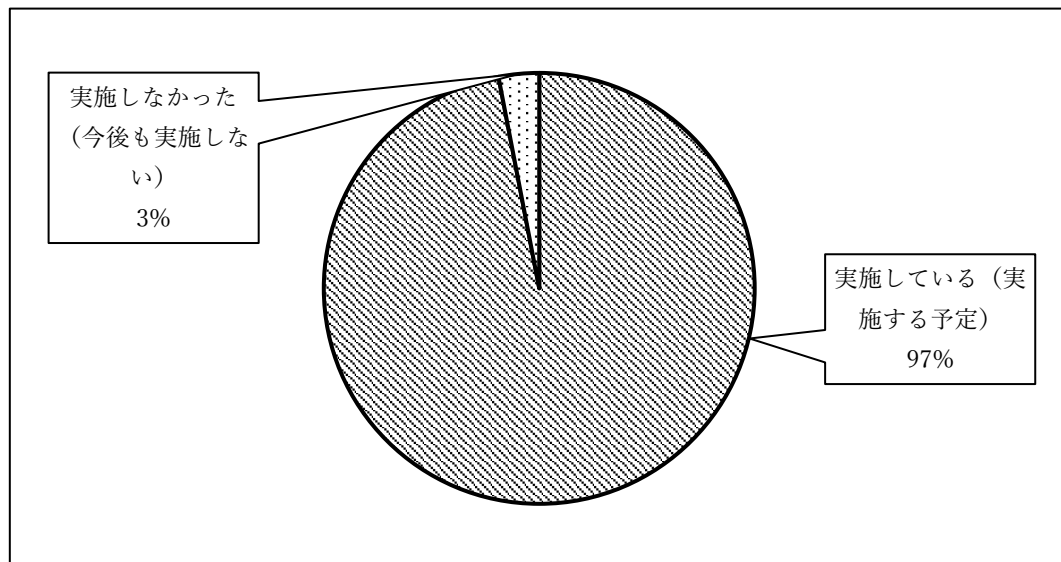
実施している学校は、実施する予定を含め 7 2 %、実施しなかった学校は今後も実施しないを含めて 2 8 % だった。

例年どおりに開催する学校と規模や方法を変えて実施する学校もあるが、感染症予防対策から、三密を避けてオンラインや校庭で実施を検討していた学校が多かった。依頼先と相談して実施の可否を決定したり、実施時期を工夫したり、実施規模の縮小や時間短縮、学年の限定や学級単位、実施場所の工夫などがあつた。

実施方法は、校内一斉放送、教室でテレビや DVD を視聴したり、オンライン会議システムを利用したり、各教室に講師を呼び実施した。教室で冊子を配布し説明をした学校もあつた。

区市の方針や講師招聘ができない、予定を延期しない、授業を優先し行事を精選するなどが実施しない理由だった。実施しないが、校内で同様の内容を指導したり、書面で学級指導をしたりしていた学校もあつた。

(9) 避難訓練・防災訓練など



① 工夫した点

- ・新型コロナウイルス感染防止のため
- ・密を避けるため
- ・学校内で同様の内容を指導している
- ・授業実施を優先、書面にて学級指導
- ・講師招聘や、大勢が集まることを避け、学級で指導
- ・感染拡大防止のため講師を招聘できなかった
- ・校庭に避難し、短時間に解散、生徒間の距離をとる
- ・避難場所の精選
- ・引き取り訓練は中止
- ・避難訓練…整列時学級同士の間隔を空ける
- ・防災訓練…避難場所を保護者が選択
- ・1学期は放送・学級指導のみ
- ・避難方法等の確認のみとしている
- ・マスクの着用、屋外での短時間実施
- ・避難場所を校庭のみとした
- ・地震を想定した避難訓練を実施した。静かに避難を行った。実際の避難ではなく、経路の確認などにとどめた
- ・実施予定だが状況によっては変更有
- ・学年で時間をずらす、簡略化するなど
- ・学年ごとに時間差をつけて避難し、集合時は間隔を広くとる
- ・集団下校訓練は実施
- ・あらかじめ、訓練の意義を十分に伝え、他人との距離に留意しながら避難
- ・生徒及び教職員にも日時、詳細を伏せて実施
- ・2学期以降コロナ対策火災や地震からの避難を両立するため実施
- ・学級活動、総合的な学習の時間を活用し学級単位で実施
- ・放送で行っている
- ・各教室でできること（机の下に隠れる、窓を開ける閉める、避難経路の確認など）を実施、校庭に移動の訓練は各学年ごとに日をかえて実施
- ・初期動作のみ
- ・地域やPTA及び近隣小学校と連携して、防災訓練を実施した
- ・防災ノートの活用
- ・避難経路をビデオで紹介
- ・各教室で避難経路の確認や避難方法の確認は行った

② 未実施の理由・課題となった点

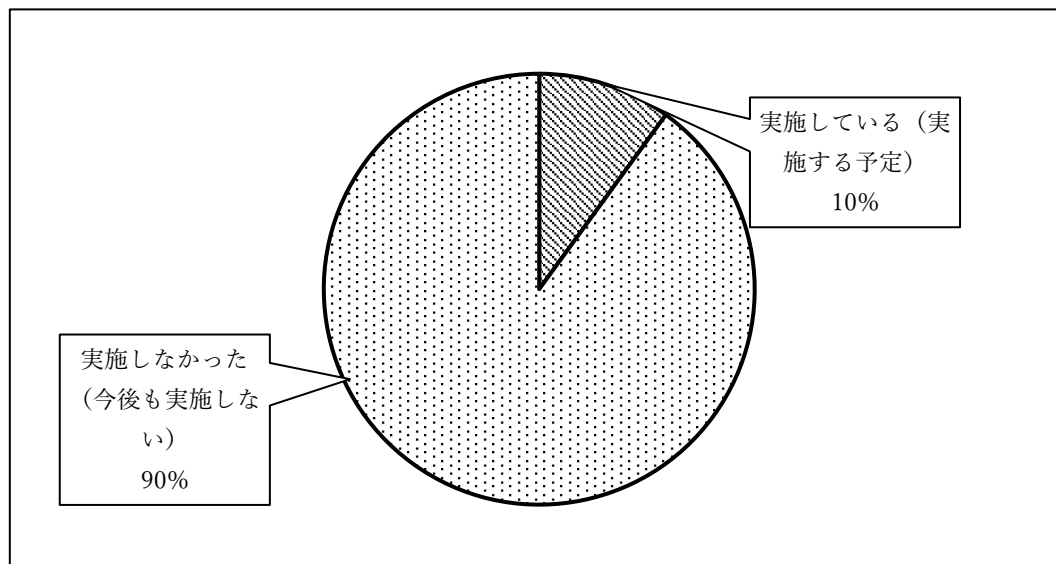
- ・感染状況等により今後検討
- ・避難経路の確認を行った
- ・市区の方針
- ・区のガイドラインにより学校判断で中止
- ・全校が集まる行事は基本的に中止

- ・集会形式で実施できないため
- ・1学期予定のため、すべて中止 薬物乱用教室以外は今後も実施予定なし
- ・行事を精選した結果
- ・感染防止対策との両立が難しいから

<考察>

避難訓練・防災訓練などを実施した学校は97%で、実施しなかった学校は3%だった。記述意見からは実施した際の工夫として、「学年ごとに実施時間を変更する」「校庭のみ避難する」「避難経路のみ確認する」といったものがあつた。安全指導の面からも避難訓練を行わないわけにはいかないので形式を工夫して、ほぼ全校が実施していると考えられる。

(10) 職場体験活動



① 工夫した点

- ・実施を延期したり、第3学年で実施したりすることも検討中
- ・オンラインで実施
- ・職場の種類を縮小して実施予定
- ・実施期間を短縮して実施
- ・地域や保護者と連携して、地域の事業所で体験活動を実施した
- ・職業人講話を予定

② 未実施の理由・課題となった点

- ・受け入れ側の都合
- ・区市で決定
- ・校外への移動であること及び事業所への迷惑を考慮
- ・各事業所の代表者と相談の結果
- ・コロナウイルス感染に対する地域住民からの不安
- ・村外へ出ることを避けるため

<考察>

職場体験を実施できた学校は10%であつた。実施できなかった理由としては、受入先の事業所への配慮や不特定多数の人と関わる場合があること、校外での活動となることが挙げられた。また、行政が中止を判断した地区もあつた。

実施した学校においても、実施期間の短縮、事業所の変更、オンラインでの実施等、通常の実施内容を変更していた。また、2学年での実施を次年度3学年での実施に変更することを検討している学校もあつた。

職場体験は一般社会の中での体験活動であり、今後の社会情勢の影響が大きい。キャリア教育の視点から次年度においても様々な対応や工夫が必要である。

4 その他の各校の特色ある活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）について

① 具体的な活動内容

- ・オンライン学活
- ・清掃活動の見直し
- ・学級PR動画の作成
- ・学習ロードマップ
- ・話し合い活動
- ・生徒会活動
- ・小中一貫校として生徒会と児童会が一緒に活動
- ・生徒会レク
- ・いじめゼロサミット
- ・ハートフル昭和
- ・遅刻ゼロ週間（コンテスト形式）
- ・医療従事者等への応援メッセージ
- ・生徒会サミット
- ・小中交流会
- ・コロナいじめ防止の取組
- ・3密防止ポスターの作成
- ・学年レク
- ・作品展示会
- ・NPOとの連携によるコミュニケーション体験活動
- ・学年ごとのミニ運動会
- ・リモート機能を活用した外部人材の活用
- ・ゲストティーチャー
- ・立春式
- ・地域と連携した9年間を見通した防災教育
- ・身体計測
- ・学年朝礼
- ・放送による朝礼、集会等
- ・オンラインによる全ての特別活動
- ・オンラインシステムによる動画配信授業
- ・休校中のやりとり帳やHP、オンラインシステムなど、生徒や家庭との関係づくり

② 工夫した点

- ・VTRで作品を紹介するなど、これから検討
- ・NPOと企業との連携
- ・児童・生徒代表者会議を定期的に行っている
- ・動画編集
- ・生徒会役員が小学校に出向いて実施
- ・「制限」が「条件」となるよう、生徒自ら感染予防対策を考えて実施した
- ・例年はスポーツ大会形式で行っているが、生徒同士の接触を避けるためにゲームやレクを行った
- ・積極的にオンラインシステムを活用
- ・各教室での電子黒板を活用
- ・区の全面的なバックアップ
- ・生徒朝礼等放送を使って行う

＜考察＞

基本的に感染対策を施しながら、できるだけ学校行事をなくさないような努力をしていることが伺えた。その際、ICTを活用して密を避ける工夫をしている学校が多く見られた。一方で、コロナ禍にあって学校行事を行えていない学校も少なくなかった。

Ⅱ 第19回 生徒会長サミット (Web)

日 時 令和2年12月26日(土) 10:00~11:30

会 場 Web上で実施

第1部 全体会 10:00~10:15 <全体司会：小平第二中学校生徒会>

- 1 開会の言葉 小平第二中学校生徒会
- 2 あいさつ 東京都中学校特別活動研究会会長 青木由美子
(小平市立小平第五中学校長)
- 3 ホスト校注意事項 小平第二中学校生徒会
- 4 各校自己紹介 (1校30秒ずつ)
①東村山五→②松江六→③狛江一→④小松→⑤小平二→⑥石神井東→
⑦松江五→⑧足立十二→⑨大南学園第四→⑩小平五 の順で自己紹介

第2部 分科会 (2分科会) 10:15~11:05

各学校での生徒会活動の取組について

- 1 実践事例の紹介
- 2 生徒会活動の課題、悩みなど
- 3 コーディネーターより

第3部 全体会 11:05~11:30 <全体司会：小平第二中学校生徒会>

- 1 分科会担当の先生より (各3分)
第1分科会：東村山第五中学校 吉川先生
第2分科会：石神井東中学校 藤本先生
- 2 生徒会長サミット担当より (2分)
大南学園第四中学校 桑原先生
- 3 司会担当より (2分) 小平第二中学校生徒会
- 4 閉会の言葉 小平第二中学校生徒会

生徒会長サミット終了

1 全体会

本年度は新型コロナウイルス感染防止のため都内の中学校において生徒会長サミットを実施することが不可能なため、東京都中学校特別活動研究会の役員が所属する学校10校の計54名の生徒会役員が参加しWeb上で開催された。全体会では主催者を代表して東京都中学校特別活動研究会の青木由美子会長の挨拶に続き、各校の自己紹介が行われた。



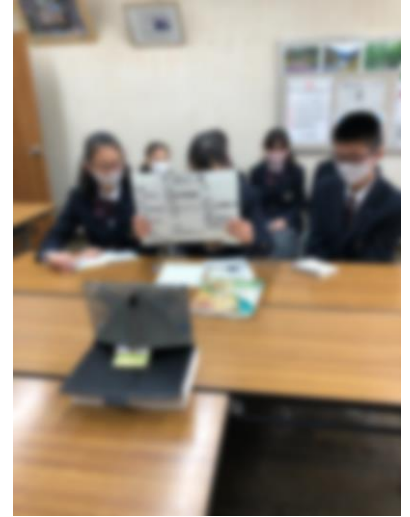
2 分科会

全大会の後、参加した生徒会役員が2分科会に分かれ、各校の活動の交流や課題の共有と改善策の協議等を行った。

各分科会では、自校の活動紹介、他校の活動についての質問や共通の課題についての意見交換を行った。

(1) 各校の活動紹介

- * ウェルカムガーデンを年に数回行っている。
 - * 美化活動として校舎を大掃除している。
 - * たちばなマインドとして、地域のために活躍すると、一回につき一つのスタンプがもらえる。このスタンプをためていくと、ノーマル→シルバー→ゴールドとランクがアップする。ゴールドになると、学校に名前が残ることになっている。
 - * 生徒に一人一枚短冊に願いを書いてもらい、笹にくくる。笹を飾る前にみんなで掃除をしてきれいにする。達成感がある活動。
 - * クラス旗を作り、投票でグッドデザイン賞を決めた。
 - * アオリニック：ひと学年2時間で競技を行う。スポーツを通して仲を深める活動
 - * ハイオアシス運動を通して、素直な心、謙虚な心や感謝の心を大切にしています。ハイはハイという返事、オはお願いします。アはありがとうございます。シは失礼します、スはすみませんです。
 - * 毎朝校門の前で挨拶運動を行っています。
 - * 募金活動：台風19号被害者支援募金、ユニセフ募金
 - * 生徒総会はWebシステムで行った。
 - * エコキャップ運動：回収箱に集めてワクチンにする。
 - * 委員会の活動内容を職員室前委に掲示する。
 - * 生徒会便りの作成と配布
 - * 桜の花プロジェクト：2年生から3年生へ感謝を込めて桜の花びらにメッセージを書き、ひとつの桜の木になるように貼る。
 - * 生徒会アンケート：8つの項目について2ヶ月に一度アンケートを採る。
 - * 挨拶運動：小中一貫校なので、小中両方の校門でコロナ対策として間隔を開けて行っている。
 - * 生徒総会や朝礼は放送で行っている。
- 生徒会役員立候補者演説会：TVを使って顔が見え、声が聞こえるようにした。
- * 児童・生徒会サミット：毎月5の付く日に挨拶デーを行っている。
 - * 部活動紹介：部活動を小学生に見せることができなかったため、ビデオに撮って小学生に見てもらった。



- * ふれあいボランティア：1回のボランティアで1つスタンプがもらえる。
- * 挨拶運動：いろいろなところに分かれて行っている。生活委員と協力しのぼりを立てている。
- * 生徒会広報誌：本部活動内容や四コマ漫画を入れたりして工夫している。

(2) 質疑応答

*桜の花プロジェクトで作ったものを提供しているのですか。

→掲示しています。

*生徒アンケートはどうしていますか。

→委員会ごとに分けています。

*たちばなマインドの参加状況

→報告書が350枚ほどあります。多くの生徒が参加している。

*目安箱にはどんな意見があったか。

→ボールの貸し出しをしてほしい。

*エコキャップについて、汚れがあった場合はどうしているか。

→洗うか捨てるか、しています。

*募金で集まったお金の管理はどうしていますか。

→回収後すぐに職員金庫で管理しています。

*傘の貸し出しはどのように行っていますか。

→学校にいるときに降ったとき、放送で知らせている。

*ハイオアシス運動について他に何か行っていますか。

→毎年あいさつボランティアを行っています。



3 生徒の感想

よかった点

- ・他校での生徒会活動の取組を聞いて、学校のためだけでなく、地域や社会のために貢献していたり、コロナ禍でも学校行事や生徒会活動を、様々な工夫をして行っていることを知った。
- ・自分たちが活動する上で見つけた課題について、他校の方々から様々なアイデアをもらったり、他校で実際に行ったことを共有したりと、お互いに思いつかなかった方法を知ることができ、自分たちの視野を大きく広げることができた。
- ・どの中学校でも、生徒会で何を目標にしているのかが違って、新鮮な気持ちになった。
- ・他の学校の人たちが、生徒会でどんな役割を果たしているのか知ることができた。
- ・他の学校は、私たちのやっていない取組を多く行っていた。
- ・本校からは遠い、区部の学校とも交流することができたため、今後は、オンラインシステムを使って、普段交流のできない学校とも交流ができるのではと思った。
- ・他の学校の人たちが、生徒会でどんな役割を果たしているのか知ることができた。
- ・自分の活動について改めて考えると、自分の学校の環境を変える重要な活動だと思うので、これからも責任をもって行おうと思った。
- ・生徒会本部役員という、できることが限られている立場からでも、学校をよりよくするためにできる取組は、幅広いものなのだと知ることができた。そのため、自分たちの活動に自信をもち、柔軟に生徒会活動を行うべきだと思った。
- ・どの学校も、生徒一人一人の意見を尊重して、大切に活動を行っていることを知った。
- ・今回の経験を、本校の発展と、目立てていない生徒会活動の活性化に繋げたい。
- ・オンラインではどうしても電波の関係で通信が乱れてしまって音声が聞こえないなどのハプニングは起こってしまいましたが、ホワイトボードに書いて司会が読みあげるなどの対処を行い、分科会を行うことができたのでとても良い経験になりました。
- ・普段は話すことができない、他校の生徒会本部役員と話ができる貴重な機会だったので、オンラインシステムを使ってでもできてよかったと思う。
- ・今回は、オンラインシステムを使ったため、様々なトラブルがあったが、それも一つの学びになったので、よかったと思う。
- ・とても緊張したけれど、入念に準備した自分の発表や会議が、成功に終わってとても嬉しかった。
- ・今回の生徒会長サミットでは、良い点、悪い点の両方が見つかり、さらにこれからの活動に取入れたい活動を知ることができた。今後の生徒会活動に生かしていき、生徒会長サミットという場を意味あるものとして残していきたいと感じた。
- ・他の学校に話を聞いていると、ボランティア活動は人の心を動かすことができるということなどが分かった。

- ・他校の色々な特色のある生徒会活動を聞き、コロナ禍の中でもできることを生徒会中心に考案することが大切だと思った。
- ・色々な中学校で、学年関係なく交流できる活動がたくさんありました。全校生徒が一体となることの大切さを知ったので、もっと他学年との交流を深められるような案を出していきたい。
- ・リアルで人がいるより、オンラインの方がかなり緊張しました。学校の紹介では、それぞれの学校の生徒会がバラエティに富んだ活動をしており、びっくりした。今回はオンライン上での開催でしたが、とても盛り上がったのではないかなと思う。とても楽しかった。
- ・去年と違って休憩時間に他校と談話できなかったけれど、進行が進んで行くにつれ「仲良くなれたかな」と思った。去年と違う楽しさがあってよかった。
- ・去年では考えられなかったパワーポイントや写真、紙を使って、より分かりやすく伝わりやすかった。
- ・1校に集まって校舎を見るだけではなく、複数校の校舎が見られて新鮮だった。

改善点

- ・オンラインシステムだと時間の制限があり、話す時間が短かったので、来年は対面で行ってほしい。
- ・例年のように直接の話し合いではなかったもので、進行がなかなか上手くいかなかったり、1つの話題を掘り下げて聞いていくということができなかったりしたことが残念でした。また、学校の数も（仕方がないけれど）とても少なかったのももっとたくさんの意見を吸収したり、いろいろな人と話し合いをしたかったです。
- ・自身の学校紹介の時は、焦って早口になってしまった。質疑応答では発言ができ、この会をより活発化できた。ただ、質疑応答において質問をされたとき、準備不足な点があった。この点は引継ぎにて伝え、これから改善していこうと思う。
- ・例年のように直接の話し合いではなかったもので、進行がなかなか上手くいかなかったり、1つの話題を掘り下げて聞いていくということができなかったりしたことが残念だった。また、学校の数も（仕方がないけれど）とても少なかったのもっとたくさんの意見を吸収したり、色々な人と話し合いをしたかった。
- ・ラグでパワーポイントがとまってしまった。
- ・休憩時間が欲しかった。

東京都中学校特別活動研究会 会則

第1章 総 則

第1条 この会は東京都中学校特別活動研究会といい、会長校に事務局をおく。

第2条 この会は東京都における中学校の特別活動の振興を図ることを目的とする。

第3条 この会は前条の目的を達成するため次のことを行う。

1. 特別活動に関する研究調査
2. 特別活動に関する講演会、研究会等の開催
3. 各種機関・団体との連絡、提携に関すること
4. その他本会の目的を達成する事業

第4条 この会は東京都と特別区、市町村教育委員会を単位とする研究団体、学校等をもって構成する。

第2章 役 員

第5条 この会は次の役員をおく。

会長	1名	副会長	事務局各部長、副部長から若干名
事務局長	1名		
理事（区市町村各1名）			
会計	2名	会計監査	2名

第6条 会長・副会長は理事会で選出する。理事は区市町村の推薦により会長がこれを委嘱する。

会計、会計監査は理事会で互選する。

事務局長は、会長が委嘱する。

第7条 会長はこの会を代表しその責任を負う。副校長は会長を補佐し、会長が事故あるときは代行する。

理事は理事会において重要事項を審議し議決する。

事務局長は、事務局を統括し、会務運営を担当する。

会計はこの会の会計事務つかさどる。

会計監査はこの会の会計を監査する。

第8条 役員の任期は1年とする。但し留任することができる。

第9条 この会は、会友、参与をおくことができる。

第3章 執行機関

第10条 本会の会務を遂行するために事務局をおく。事務局には、事務局長のもとに、事務局次長1名のほか、事務局員をおく。

第11条 事務局には、研究部、編集部、広報部をおく。
各部には、部長、副部長、部員をおく。

第12条 各部の構成人員は、事務局員をもってこれに充て、会長が委嘱する。

第3章 会 議

第13条 この会の会議は次の通りとする。

1. 総会
2. 理事会

第14条 総会は会長が招集し毎年1回開催する。但し必要に応じて臨時に開くことができる。

第15条 総会の議決は出席者の多数による。

1. 予算の決議及び決算等の承認
2. 会則の変更
3. その他の重要事項

第16条 緊急やむえない事情により総会を開くことができない場合は、理事会の決議をもってこれをかえることができる。この場合は次の総会で承認を受けるものとする。

第17条 理事会は会長が召集し、会議の議長は会長があたる。なお、事務局長が参加するものとする。

第4章 会 計

第18条 この会の経費は会費及びその他の収入でこれをあたる。

第19条 この会の会費として年額下記の金額を負担する。
単位研究団体 1校 1000円の割

学校単位での入会した場合 1000 円とする。

第 20 条 この会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

附 則

この会則は、昭和 47 年 4 月 1 日より実施するものとする。

平成 24 年 5 月 12 日 一部改正する。

役 職	氏 名	勤 務 校	電 話	F A X	職 名
会 長	青木 由美子	小平市立小平第五中学校	042-341-6795	042-341-6797	校 長
副会長	上岡 祥邦	足立区立第十二中学校	03-3605-2734	03-3605-2881	校 長
副会長（顧問）	松本 康夫	東村山市立東村山第七中学校	042-391-9117	042-397-5421	校 長
事務局長	荒巻 淳	江戸川区立松江第五中学校	03-3652-7946	03-5662-2969	校 長
事務局次長	植木 俊孝	小金井市立南中学校	042-383-1105	042-382-0405	副校長
会計部長	藤本 謙一郎	練馬区立石神井東中学校	03-3996-2157	03-3997-3674	主幹教諭
副部長	岩崎 航太	小平市立小平第二中学校	042-341-0244	042-341-1962	主任教諭
研究部長	瀬戸 完一	葛飾区立小松中学校	03-3653-1436	03-5607-0781	副校長
副部長	吉川 滋之	東村山市立東村山第五中学校	042-391-9115	042-397-5419	指導教諭
	大塚 隆弘	江東区立深川第一中学校	03-3651-3241	03-3631-3803	主幹教諭
	吉田 義和	練馬区立開進第三中学校	03-3993-4265	03-5984-3036	主任教諭
	横山 清貴	中野区立第四中学校	03-3330-5325	03-3330-5326	教 諭
	藤井 拓也	世田谷区立船橋希望中学校	03-3484-3741	03-3484-3745	教 諭
	安藤 大	江戸川区立瑞江中学校	03-3651-2210	03-3651-0680	教 諭
	田中 識啓	江戸川区立小岩第三中学校	03-3657-1958	03-3657-1967	主幹教諭
	佐藤 勝賢	足立区立青井中学校	03-3880-2231	03-3880-2232	主任教諭
編集部長	滝沢 二三雄	江戸川区立松江第六中学校	03-3656-6711	03-3656-6774	副校長
副部長	松本 康夫	東村山市立東村山第七中学校	042-391-9117	042-397-5421	校 長
	田爪 一浩	中野区立緑野中学校	03-3386-5423	03-3386-5426	副校長
	原 奈都子	江戸川区立小松川第二中学校	03-3685-4900	03-3685-4911	主任教諭
	栞原 美絵	武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校	042-564-4341	042-563-9149	教 諭
	大橋 えり	葛飾区立常盤中学校	03-3607-1122	03-5699-1513	主任教諭
	三枝 剛	江戸川区立南葛西中学校	03-3675-0317	03-3675-0607	主任教諭
	小野 貴史	足立区立第四中学校（夜間学級）	03-3887-1466	03-3887-6066	教 諭
	有川 直志	江東区立有明西学園（義務教育学校）	03-3527-6403	03-3527-6407	主任教諭
	大塚 咲希	中野区立第七中学校	03-3389-4171	03-3389-4172	教 諭
	真辺 草平	足立区立六月中学校	03-3859-1072	03-3859-1078	教 諭
広報部長	谷口 典夫	狛江市立狛江第一中学校	03-3480-0121	03-5497-7361	教 諭
副部長	上岡 祥邦	足立区立第十二中学校	03-3605-2734	03-3605-2881	校 長
	伊木 文枝	東村山市立東村山第三中学校萩山分校	042-341-6639	042-347-4377	主幹教諭
	酒井 寛子	板橋区立志村第四中学校	03-3966-9426	03-3966-9426	教 諭
	西本 静	江戸川区立松江第六中学校	03-3656-6711	03-3656-6774	教 諭
	鶴岡 友樹	江戸川区立小松川第二中学校	03-3685-4900	03-3685-4911	教 諭
	鹿野 天一郎	足立区立第十中学校	03-3887-7891	03-3887-7893	教 諭
	大根田由香里	府中市立府中第四中学校	042-363-9124	042-334-0894	主任教諭
	小林 真晴	江東区立辰巳中学校	03-3521-8581	03-3521-847	教 諭
	加藤 拓人	江戸川区立小岩第三中学校	03-3657-1958	03-3657-1967	主任教諭
会計監査	大塚 隆弘	江東区立深川第一中学校	03-3651-3241	03-3631-3803	主幹教諭
会計監査	大熊 恵子	練馬区立田柄中学校	03-3990-4403	03-3577-7999	主幹教諭
顧 問	佐々木 辰彦	東大和市教育委員会（非常勤教員）＊	042-564-5411	042-590-7030	
顧 問	長谷川 晋也	墨田区適応指導教室ステップ学級（指導員）	03-5608-6919	03-5608-6919	
顧 問	勝亦 章行	練馬区教育委員会 就学相談員	03-5984-5664	03-3993-1196	
顧 問	弓田 豊	中野区立中野中学校（事務局会場校）	03-3389-1471	03-3389-1472	校 長

＊配置校：東大和市立第三中学校